

2

21

美作略史

貞

21

東 京 圖 書 館				
四	二	一	二	
冊	号	架	函	類

美作畧史

矢吹正則著

貞

30.10.20

東京
書館
香山

美作略史
卷之四

美作略史卷之四

津山

矢吹正則 著

男金一郎 校

十一月。寅。正月十四日。松平長矩。封于本列。松平系

記。録。安藤家。藩。翰。譜。

長矩。備前。ハ光長ノ嗣子ナリ。津山十萬石。勝南、東南、東北、條

西、北、條、西、々、條、久、米、南、二、封、ゼ、ラ、レ、國、主、ニ、准、ズ、乃、チ

其臣伊藤恭和、贈ハ藤本貴重、衛兵馬場真房。衛殿、右

戸田久雄、源五右衛門、入江恭純、衛左、長澤好治、衛左、平井

茂喬、衛五、郎、右、等、ヲ、津山ニ遣ハシ、城邑ノ収領ヲ謀ラ

シム

松平氏ハ、東照公ノ第二子、秀康ヲ以テ始祖ト為
 ス、秀康正三位權中納言ニ任ジ、越前北莊七十五
 萬石ヲ領ス、長子從三位參議忠直、元和九年、故
 リテ豐後府内ニ配セラレ、嫡子從三位右近衛權
 中將光長、越後高田ニ移リ、二十五萬石ヲ食ム、天
 和元年、事ニ坐シ伊豫松山ニ幽セラレ、幽中米一
 万石ヲ給
 貞享四年、免サレテ江戸柳原邸ニ歸ル、粟三
 萬石ヲ賜フ、元祿十年、退隱シ長矩ヲシテ叢ガシ
 ム、光長、後寶永四年十一月、
 江戸ニ薨ズ、享年九十三、
 春、復改郡名。元祿地方帳、大
 谷氏藏明細帳。
 幕府ノ記録ニ、勝田久米二郡ハ、皆南北ノ別ナク、而

テ陰ニ別アリ、其施為スル所口亦以テ便ナリトス、
 於是、赤井平右衛門、守屋助次郎等、幕府ニ建議シ、改
 テ十二郡ト為シ、寛文以前ノ稱ニ復ス、

五月二十五日、長矩収津山城。安藤家記。
 大熊家記。

是日、老臣渥美友榮權左衛門、祿
 千五百石、大熊昌俊六左衛門、
 祿千石、

伊藤恭和、藤本貴重等ト共ニ城ヲ収ム、明日、赤井平
 右衛門、仁賀保孫九郎、淺野伊織等、皆津山ヲ發シテ
 歸ル、

是月、幕府置官廨于英田郡倉敷村。松平記、錄、郷
 村引渡書。

幕府、松平氏ニ津山ヲ與ルヲ以テ、代官竹村惣左衛
 門、守屋助次郎、岡田五右衛門ヲシテ、倉敷村ニ移リ

治七シム、四年夏、管地率、左衛門、五右衛門、任解、歸、十
 六月、助次郎乃、代官、而與、一左衛門、二托、シテ、歸、ル、
 後、綱、豐、ノ、臣、平、岡、孫、市、此、ニ、移、リ、幾、ナ、ク、シ、テ、土、居、村、
 武、井、善、八、郎、之、二、代、官、堀、内、六、郎、兵、衛、新、此、二、移、ル、之、四、年、
 代、ル、六、年、内、山、七、兵、衛、十、六、年、萬、年、石、原、新、十、郎、又、之、二、年、
 田、喜、八、郎、元、文、四、年、松、風、彦、五、郎、延、享、元、年、根、岸、木、工、池、
 左、衛、門、三、年、正、月、藤、井、九、左、衛、門、寬、延、二、年、八、月、藤、沼、
 源、左、衛、門、寶、曆、三、年、三、月、藤、水、甚、助、六、年、飯、沼、伊、兵、
 衛、十、一、年、平、岡、彦、兵、衛、相、代、テ、管、治、ス、明、和、年、
 三、年、三、月、森、俊、春、ノ、所、管、ト、為、リ、遂、ニ、廢、ス、
 九月、幕府置官、癸子吉野郡古町村。及久米北條郡坪井
 下村。地方書類。代官所設置調書。

是月、幕府其邑ヲ三分シテ、代官内山七兵衛ニ吉野
 一、英田、澤、三、海、田、等、二十餘村、勝北、内、村、等、河、三、郡、ヲ、
 西與一左衛門ニ勝南、村、々、久米南條、尾、村、等、久米北

條、山、手、公、文、南、方、坪、井、真、島、鹿、田、木、山、栗、四、郡、ヲ、管、七
 下、中、北、上、錦、織、村、等、
 シ、ム、七、兵、衛、古、町、村、二、治、ス、寶、永、四、年、致、仕、ス、五、年、近
 小、左、衛、門、之、二、代、官、享、保、九、年、美、濃、部、勘、右、衛、門、又、之、
 二、代、官、十、六、年、坂、元、新、左、衛、門、又、之、二、代、官、八、年、新、左、
 衛、門、轉、任、シ、遂、ニ、廢、ス、與、一、左、衛、門、坪、井、下、村、ニ、治、ス、
 元、祿、十、五、年、九、月、坪、井、下、村、内、藤、政、森、ノ、所、領、ト、為、ル、
 居、村、ニ、移、リ、治、ス、

十一月、松平綱國徙居于津山。松平系圖。松平

綱國、見、市、正、長、頼、ノ、子、永、初、萬、德、地、ト、稱、ス、光、長、ノ、嗣
 ト、為、リ、從、四、位、上、ニ、叙、シ、侍、從、ニ、任、ズ、天、和、ノ、初、事、ヲ
 以、テ、備、後、福、山、ニ、幽、セ、ラ、ル、幽、中、米、三、千、貞、享、四、年、免
 サ、レ、テ、朽、原、邸、ニ、歸、ル、至、是、長、矩、綱、國、ヲ、シ、テ、先、ヅ、封
 土、ニ、就、カ、シ、ム、老、臣、安、藤、之、常、鞞、負、祿、及、ビ、伊、達、宗、繼

與兵衛、等從ヒ至ル、細國人ト為リ、茶謙初ノ男國近之
 助、後、ヲ舉ゲドモ、之常ヲシテ之ヲ子養セシノ、敢テ
 富貴ヲ規ラズト云、綱國、城北宮川、第ニ居ル、薙髮シテ更山ト號ス、享保ニ十年三月
 卒ス、壽七十有四、先是、長矩、國近ニ祿千石ヲ給ス、其
 子造酒助、近倫、永見、氏ヲ冒ス、明治三年ニ至テ、松平
 氏ニ復ス、宮川第八官川ノ西岸ニ沿ヒ、北松原ノ南
 二在リ、此編ヲ修ムルニ當リ、丈政三年ノ北松原ノ南
 闕スルニ、地若クハ、劃シテ、更山君御居間、跡ト稱シ、
 耕耘セザルノ地ト為ス、而テ、今湮滅シテ、其處ヲ詳
 ズ、ニ、七

是歲始悉用印為證。夫吹藏古書。

先是大庄屋肝煎及ビ庄屋ハ、公私ノ別ナク、物ヲ證
 スルニ、印章若クハ華判ヲ以テス、而テ細民ハ率子
 華字或ハ環形ヲ畫テ之ヲ證セリ、至是始テ畫ク印

章ヲ用テ證ト為ス、

十二年。卯。巳。三月二十七日。誅兇民八人。松平記錄。地方書類。

十年ノ徵租ハ、幕制五民、タリシヲ以テ、之ヲ松平氏

ノ租法六公四民、ニ比スレバ、稍寬ト為ス、去年、高倉村北東

條、四郎右衛門、佐右衛門、高野本鄉村條南、作右衛門

等、幕制ノ如クセンヲ乞フ、郡代畑田治部左衛門、山

田仙右衛門當時、郡代町奉行各二人、幕府ト諸藩ハ、

租法ニ別アルヲ以テ聽サズ、四郎右衛門等、以為ク

衆力ヲ藉テ強請スルニ若カズト、自ラ倡首ト為リ、

十一月十一日、津山城下ヲ侵ス、藩乃チ士卒ニ命ジ

テ四郎右衛門等ヲ捕フ、至是、四郎右衛門ノ兄堀内

三郎右衛門大庄屋之ニ與カルヲ以テ并セ誅ス、
十二月二日。定大庄屋俸給。松平記録。地方書類。

先是森氏大庄屋五十餘人ヲ置キ、年俸米八石ヲ給
シ、一人ノ所轄凡五千石ト為シ、而テ其門望アル者
ニ任ジ、之ヲ世襲シ、上ニ阿諛ナク、下ニ輕慢ヲ生ゼ

シメズ、至是長矩封内ニ就キ、仍テ其二十人二宮村
立石五
郎右衛門、院在村江川四郎左衛門、塚谷村櫻井七右
衛門、田邑村土居七郎兵衛、田邊村土居藤七、富村廣
山、孫左衛門、目木村福島善兵衛、上河内村近藤忠左
衛門、湯本村美甘三郎左衛門、香々美中村岸新兵衛、
一宮村中島孫左衛門、山北村大谷九右衛門、野介代
村香山太郎兵衛、押入村岸本又三郎、綾部村多胡勘
右衛門、一方村植月六郎右衛門、奥津村三浦市郎右衛
衛門、三家村進ヲ用ヒ、年俸米十五石ヲ給ス、而テ其十

石ヲ官ヨリ給シ、五石ヲ民費ニ課ス、後江川岸香山、
故アリ罷ム、香
、香美中村中島多右衛門、大篠村安黒和右衛門ヲ以
テ之ニ代フ、其他解職人ル者ハ、率ホ封七ノ轉換ニ
相ル、

十三年。庚秋。幕府命長矩正國圖。松平記録。地方書類。

幕府長矩ニ命ジテ、正保中森氏ノ調進セシ所ノ地

圖ニ就キ、道路河流ノ同異ヲ正サシム、藩臣小島廣

憲新五右、鈴木辰成惣夫、大等、乃テ諸郡ヲ巡視シ、明年

二月、新圖ヲ製シテ之ヲ上ル、

十四年。辛巳。德川綱豐領勝南郡等。松平記録。地方書類。矢
吹、蔵割費帳。武野燭

綱豐甲府中、勝南勝間田畑屋瓜生原倉見行久米南

綱豐約言、中勝南信松尾柵原木知个原諸村、久米南

條山佐良高尾諸村、神久米北條、宮尾、錦織、足山、久米、真島、
 鹿田、惣木山、富尾、四郡ノ中ニ就キ、八萬六百二十七
 石餘ヲ領ス、九月、其臣竹田政為、源左衛門來テ之ヲ収ム、
 平岡好道、市原七右衛門、尋テ至リ、政為ハ宮尾村
 二好道ハ木知、今原村ニ治ス、大庄屋十五人、勝間田
 瀨左衛門、倉見村、山本平次、右衛門、原田村、稻屋與三、右衛門、
 右衛門、大戸村、直原猪右衛門、原田村、稻屋與三、右衛門、
 門、錦織村、堪増伊兵衛、宮尾村、池田次郎、左衛門、宮部
 村、大林平兵衛、草加部村、福島孫右衛門、鹿田村、辻新
 次郎ヲ擧ゲ、年俸米二十四石ヲ給ス、明年、近山清兵衛
 等、リ、勝間田村ニ移リ、治ス、後堀内六郎兵衛、櫻井孫
 代、衛赴任シ、孫兵衛ハ鹿田村ニ治シ、六郎兵衛ハ木
 兵衛、今原、大戸、及ビ倉敷村等ニ轉治ス、實永元年、綱豊
 將、軍綱吉ニ養ハレ、江戶西城ニ入ル、目テ西丸領ト
 稱ス、六年、立テ將軍ト為リ、家宣ト改メ、是ニ於テ其
 領邑悉ク幕府ニ隸ス、清兵衛等仍ホ之ヲ管ス、清兵衛

衛後清右衛門ト稱ス

十一月、浚香々美川。通船願書。岸新

板屋九右衛門、津山美濃職、隅屋十右衛門、同堺町、津

山川ヨリ、船ヲ香々美中村、西北、二通セント欲シ、資

ヲ捐テ、香々美川二里二十九町ヲ浚鑿ス、

十五年、壬三月、浚高田川。浚川願書。通船

山口勘右衛門、元江戶藩、臣ニ列ス、高田川十一里餘

真島郡高田村ヨリ、大ヲ浚鑿シ、山中數十村ノ運輸

庭郡上徳山村ニ至ル、ヲ浚鑿シ、山中數十村ノ運輸

ヲ便ニセント請フ、藩之ヲ許ルス、按ニ其功ノ成否

不、之ヲ聞ク、近時此川ヲ浚ルニ當リ、往々巖石ニ鑿
 痕ヲ存スル者アルヲ見ルト、因テ以テ其浚鑿セシヲ
 ナ知ル

六月六日。長矩就封。松平記錄。

長矩州ヲ領シテヨリ茲ニ五年始テ封土ニ就ク、明

三月十八日東上ス、後隔年東

上スルヲ以テ恒例ト為ス、東
七月二十八日大風洪水。松平記錄。風水局書。

津山藩封内家屋五百二十ヲ覆シ、耕地高八百六十
石ヲ凍シ、一萬五千石ヲ害ス、其他木竹ノ損害數フ
ルニ勝ユ可ラズ、

九月内藤政森領久米北條郡内五千石。松平記錄。福

政森山城守上野安中城主寛延二年右近代官西與

一左衛門ノ所管久米北條郡ノ内十二村坪井、南、方

等ヲ領ス、是月二十三日郡奉行杉山甚左衛門鶴沼

長兵衛、中里長藏等領邑及ヒ解舍坪井下村ヲ收メ

大庄屋二人坪井下村福本左衛門、ヲ撰用ス、明治

又勝北郡高圓行方等十餘村

是月幕府置官解于英田郡土居村。代官所設置調

幕府内藤氏ニ坪井村等ヲ與ルヲ以テ西與一左衛

門ヲシテ土居村ニ移リ治セシム、寶永四年平岡二

代リテ治ス、正徳三年岩出彦兵衛之ニ代ル、享保九

池田喜八郎平岡彦兵衛乃之ヲ兼又明年水野彦

四郎赴任ス、明年曾根五兵衛之ニ代ル、寛保三年小

野左大夫又之二代ル、延享元年根岸木工左衛門又

是歲藩置所作庄屋。松平記錄。地方書類。

津山ノ市人、近郊ノ地ヲ耕ス者多シ、於是藩町作庄屋ナル者ヲ置キ、其租税ヲ司ラシム、

十六年。癸未。春。長矩巡視封内。牧山氏藏。中西家記。

八月十三日。長矩拘老臣小須賀帶刀。藩士山。變技書。

帶刀百石、五政ヲ執リ多ク處置ヲ失、一藩怨望ス、

長矩乃チ其職祿ヲ褫ヒ、渥美文榮伊藤恭和ニ命ジ

テ、帶刀及ビ其子一學ヲ拘セシム、享保五年五月十日、老臣渥美岡

書罪アリ、職祿ヲ褫ヒ之ヲ放ツ、是ヨリ先從、藩臣ノ賞罰頗ル多シト雖トモ、率ニ畧ニ從フ、

寶永元年。甲申。二月。中山神社行千年祭。松平記。中山社記。

社記ニ云ク、慶雲二年ノ創建ナリ、爾來百年ゴトニ

大祭ヲ行フト、

三年。丙戌。錦織村民鑿池于下打穴下村。村上家記。寶永雜書。

錦織村條久米、北小西田ノ地、水一乏シク、毎ニ旱害ヲ

被ル、是年、村民其隣邑下打穴下村同ノ民ニ謀リ、池

ヲ下打穴下村暮坪ノ地ニ鑿チ、以テ水ヲ小西田ニ

通ジ、馬ニ漑グ、代官近山清右衛門西丸以謂ラク、先

國主森氏ハ、池敷所在ノ村ニ於テ其租ヲ免スルヲ

以テ、往々紛議ヲ生ゼリ、寧口其水ヲ用ユルノ村ニ

就テ之ヲ免シ、其地ノ所屬タルヲ明カニスルニ若

カズト、因テ幕府ニ建議シ、池敷地高六石餘ヲ錦織

村ニ免シ、而テ錦織村ヲシテ其地租及ビ諸税ヲ下

打穴下村ニ辨償セシム、

五年。戊子。二月。貢徭金。慶弘記。間。一矢吹口記。

去年十一月、富士山噴火シ、灰砂ヲ降ダス、駿河遠江諸州、堆積七八尺、若クハ一二丈、幕府乃チ天下ノ高百石ニ金二兩ヲ課シ、以テ之ヲ除ク、於是幕邑及ビ津山藩等、皆之ヲ貢ス、

十一月、小川恒克著忠誠後鑑錄。忠誠後。鑑錄序。

恒克忠右衛門藩ノ留守役ヲ以テ江戸ニ寓ス、大石良雄等四十七士ノ傳ヲ蒐輯セント欲シ、見聞ニ隨テ筆錄ス、至是、全部十卷稿ヲ脱ス、之ヲ藩主ニ上ル、

中御門天皇寶永七年。庚寅。八月、宣富定放鷹漁獵之地。松平

錄記。

宣富長矩、改名。森氏ノ制ニ倣ヒ、遊獵ノ地ヲ定ム、但津山川及ビ高田川ニ漁スルヲ禁セズ、

閏八月、大震。松平記錄。

人畜多ク死ス、

正徳元年。辛卯。二月、朔、又震。松平記錄。

三年。癸巳。廢幕邑大庄屋。辻家譜。

享保元年。丙申。二月、饑、宣富賑之。地方書類。

封内饑ル者八千五百餘人、宣富場ヲ津山久世ニ設ケ、鹽若干ヲ賑ハス、

二年。丁酉。三月十日、宣富許大庄屋稱氏。松平記錄。地方書類。

先是大庄屋ハ公事氏ヲ稱スルヲ許サズ、元祿中、騎

馬佩刀ヲ許ルマ、至是又此命アリ、
是月。巡見使至。松平記録。森記録。

松平與左衛門、落合源右衛門等之ガ使タリ、初ノ國使

廻上使ト稱マ、諸藩ノ待遇亦甚ダ厚シ、寛永ノ初、市

橋伊豆守、柘植平右衛門、巡視ス、森氏、郡奉行ヲ以テ

嚮導ト為シ、老臣原十兵衛、上坂主水ヲシテ之ニ從

ハシム、是ヨリ先キ屢至レドモ年月氏名詳ナラズ、

九月。美作鬢鏡刻成。美作鏡。

林盛龍別人ニシテ所在詳ナ幕藩ノ所轄ヲ區分シ、

每村吏名草高及ビ名勝舊蹟等ヲ記録シテ、小冊子

ト為シ梓ニ上ス、鬢鏡載スル所口領主松平越後守

鹿田村一萬九百石餘、飯塚孫次郎所轄、高田村七十

二百石餘、前島小左衛門所轄、古町村四萬六千八百

石餘、岩出考兵衛所轄、土居村五萬石餘、武井善

八郎所轄、倉敷村三萬二千九百石餘、誕生寺領六十

三石餘、計二十五萬九千石餘、村數六百九十一、大左

屋二十二、中庄屋四十四人、庄屋七百十九人、大年

寄十三人、年寄七十三人、

六年。辛。二月七日。宣富卒。子淺五郎嗣。松平系圖。松平記録。

宣富ハ陸奥白河城主松平直矩大和守、忠直ノ弟、第

二子ナリ、初源之助ト稱シ、長矩ト名ク、元祿六年十

二月、光長二子養セラル、七年十二月、從四位下ニ叙

シ、左衛門督ニ任ズ、八年十二月、備前守ニ遷ル、十年

十二月、侍從ニ任ズ、十二年十二月、左近衛權少將ニ

轉ズ、寶永五年正月、越後守ヲ兼ヌ、六年十一月、宣富

ト改稱ス、卒ス年四十二、法謚源泉、城西世子淺五郎

吉宗二謁、重臣三大、下村昌右衛門、藤原之幸、黒田

夫殿安山田主膳榮土、榎木兵右衛門正勝、伊達與兵

衛為澄、從テ吉宗二謁ス、○涅槃寺、後泰安寺二改ム

松平氏世、泰安寺及ビ江戸天徳寺ヲ

以テ瑩域ト為ス、故ニ後之ヲ略ス、

八月、大風洪水。風水屆録。

七年、主春饑、淺五郎賑之。松平

五月二十五日、幕府裁和氣山論。山論書類。

先是、四年七月朔、幕邑十五村、代官岩出彦兵衛所管

仁、中原、金井、吉田新田、福力池、个原、宮山、馬、民、津

伏十三村、武井、善八郎所管、行信、書副二村、

山封内十一村、井口、川邊、國分寺、日上、川崎、太田、民

、柴草ヲ和氣山勝南ニ蒞ルヲ拒ミ、山中ニ鬪争シ

テ、二十餘人ヲ傷ツク、五年、津山領民、日上村、中庄、屋

右田村中庄、屋本郷小之ヲ幕府ニ訟フ、幕府乃チ土井

伊豫守、大岡越前守等ニ命ジテ之ヲ判セシメ、幕邑

ノ民ヲ召ス、周佐村庄屋福田久右衛門、安井村庄屋

衛等召、六年三月四日、將軍吉宗親カラ吹上亭ニ臨

テ之ヲ聽ク、初メ幕邑瓜生原村ハ、和氣山ニ接シ、而

テ事ニ關セザルヲ以テ、其耳目スル所ヲ問ハント

欲シ、庄屋二人、目瀬藤四郎、ヲ召ス、是日、對審既ニ畢

リ、之ヲ二人ニ問フ、二人對テ曰、鄙村固ヨリ和氣山

幕府乃子代官飯塚孫次郎但馬生野ニ命ジテ山中
ヲ檢按セシム至是其疆域ヲ裁定シ共ニ此ニ蒞ラ
シム是ヨリ先後郡村及ビ山川ノ境界ヲ争ヒ幕府
ニシテ藩主ノ裁決ニ係ル者ハ姑ラク之ヲ略ス
八年癸卯九月通船于加茂川原流通船書類

大庄屋中西治久左衛門中庄屋山本彦三郎共ニ東北
原村龜田甚兵衛同郡塔中等加茂諸村ノ貢米ヲ津
山ニ陸送スルノ勞ヲ省カント欲シ加茂川三里餘
勝北郡插村ヨリヲ浚鑿シ以テ船ヲ津山ニ達スル
塔中村ニ至ルヲ請フ藩之ヲ許ルス至是始テ船路ヲ開ク享保十
茂諸村幕府ニ隸ス幕府其資ヲ給ハズ遂ニ船路ヲ失ス

九年甲辰九月大風洪水風水
十年乙巳大旱矢吹日記
早害屆書

五月二十八日ヨリ八月五日ニ至ルマテ雨ヲラズ
淺五郎祀曩祖東照公于山北村愛宕山松平記録美
十一年丙午三月勝南郡民乞恤于幕府矢吹日記
救助願書

去年雨ナク苗稼登ラズ而シテ勝南郡十七村下谷周
松尾重藤鹽氣長内金屎入田岩見田最モ太甚シ村
稻穂下山鳥淵青野王子城田村等民代官保木左太郎土居村
ニ治スニ就キ救ヲ乞フ聽カズ周佐村川上七兵衛等乃チ幕府ニ哀訴セシト欲シ
左太郎ニ猜嫌セラレテ果サズ村民大ニ怨ミ矢吹
正勝孫左衛門行川上孫三郎上間村ニ依テ幕府ニ

歎訴ス、二人左太郎ニ謂テ曰ク、君管民ノ窮饑ヲ救恤スル其任ナレバ、則チ必ズ幕府ニ建議セラルベシト雖ドモ、亦饑民ノ自ラ措ク能ハズシテ、幕府ニ哀請セント欲スルヲ許セヨト、左太郎竟ニ之ヲ諾ス、是月、二人乃チ江戸ニ詣リ恤ヲ乞フ、八月、復東上シ、遂ニ給恤ヲ得テ歸ル、

十一月十一日、淺五郎卒。長熙嗣。

松平系圖。松平記。錄。藩翰譜續編。

淺五郎未ダ封土ニ就カズシテ卒ス、年僅二十一、法智嗣ナシ、於是、松平知清主税頭、直矩ノ第三子、第ニ宣富ノ弟ナリ、第三子長熙又三、松平綱國ノ嫡孫安藤近倫造酒、二人ヲ擇テ、後嗣ト為スヲ請フ、十八日、幕府長熙ニ命

シテ嗣ガシメ、封土ノ半ヲ削ル、幕例、嗣ナキハ祀ヲ以テ、特ニ之ヲ存スト云、十六年七月二十八日、長熙初テ將軍吉

宗ニ謁ス、老臣佐久間主計盛林、海老原孫助景章等、從テ吉宗ニ謁ス、

十二月、真島郡騷擾。山中騷擾記。享保日錄抄。

先是、藩十一月二十五日ヲ以テ、徵租ノ限ト為ス、是年、勘定奉行久保新平、俄ニ之ヲ十月十五日ニ改メ、

其間麥ヲ種ルヲ禁ズ、領民憂憤、物情騷然タリ、藩乃チ新平ノ職祿ヲ褫ヒ、之ヲ禁錮ス、是月、真島郡仲間

村收分徳右衛門、小童谷村日向收分、日向皆地名、半六見尾

村弥次郎等、減封ノ事ヲ聞キ、流言スラク、大庭真島

二郡ハ業已ニ幕府ニ隸ス、往々ニ納ムル所ノ貢租

ハ、頗ル額ニ過グ、今坐視シテ促ズンバ、則チ藩吏ハ有トナラント、於是、二郡ノ民久世村ニ會聚シ、超租ヲ督促シ、或ハ荒鐘ヲ唱ヘ救恤ヲ乞フ、代官三木保教甚門左、反覆説諭シ、竟ニ千八百苞ノ米券ヲ與テ去ラシム、徳右衛門等、猶其意ヲ逞セント欲シ、又曰、米券ハ不日故紙ニ属セン、速ニ穀ニ換ガル可ラズト、二郡ノ民乃チ復蠢起シ、豪富ヲ恐喝シ、金穀物品ヲ鹵掠ス、明年正月、藩保教、及ビ山田補秋文、ニ附スルニ、生殺ノ權ヲ以テシ、士卒數十人ヲ率テ之ヲ鎮定セシム、七日、二人進テ新庄驛真島ニ至ル、兇徒五六百人、銃槍ヲ携ヘ、黒田村ニ會シ、且サニ襲ハントス、

二人乃チ令シテ曰ク、聞ク徳右衛門等、兇器ヲ齎ラシ我ヲ襲ハントスト、若シ我ヲ襲ヒ我ニ抗セバ、我盡ク之ヲ誅センノミ、然レドモ良民ノ脅從スル者ヲシテ、玉石共ニ燬カシムルハ、我が忍ビサル所ナリ、宜シク反正スベシト、於是、兇徒相傳ヘ、逃走スル者多シ、徳右衛門等遂ニ襲フ能ハズ、十二日、又黨ヲ募リ土居村郡ニ會ス、保教乃チ其黨五人ヲ驛外ニ斬殺シ、夜半雪ヲ冒シ、士卒ヲ率キテ土居村ヲ襲ヒ、徳右衛門等數十人ヲ捕フ、明日、西茅部村太郎兵衛等二十五人ヲ土居村ニ斬リ、二所三坂此、木路此ニ梟ス、魁首彌次郎半六等皆村人ノ告ル所ト為リ縛ニ就ク、

二十五日、真加村善兵衛等八人ヲ湯元村ニ斬ル、閏
 正月二日、田原村茂七郎等七人ヲ久世驛ニ斬ル、於
 是兇徒大ニ怖レ、向キニ掠ル所ノ金穀物品ヲ還
 附ス、三月十二日、徳右衛門、弥次郎、半六等六人ヲ二
 宮村西々、滑川ノ上リニ梟ス、

十二年丁未五月、長瀬致封土半地方引

長瀬、東北條阿波、物見、山下、西々、津、齋、原、諸、村、與、西
 北條、寺、岩、屋、越、畑、大、早、大、庭、湯、木、久、世、河、内、諸、村、真、島
 茅、部、藤、森、三、家、土、居、五、郡、内、五、萬、石、ヲ、致、ス、幕、府、乃
 以、代、官、内、山、七、兵、衛、倉、敷、村、ニ、命、シ、テ、之、ヲ、管、セ、シ、ム、
 八月、幕、府、置、官、癖、于、大、庭、郡、久、世、村、代、官、所、設、置、調、書、地、方、書、類、

幕府、代官窪島作右衛門ニ命ジ、内山七兵衛ニ代テ、

久世村ニ移リ治セシム、元文二年三月、平岡彦兵衛

享元年八月、永田小左衛門之代、石黒小右衛門、鹿田

ノ臣又之ニ代ル、寶曆五年正月、石黒小右衛門、鹿田

村ヨリ徙テ之ニ代ル、六年五月、病デ死ス、内方鉄五

郎乃チ之ニ代ル、十二月、藤本甚助、倉敷村ヨリ來テ

之ニ代ル、十一月、九月、竹垣庄藏、又之ニ代ル、明和五

年七月、鈴木小右衛門、又之ニ代ル、六年春、稻垣藤右

衛門、又之ニ代ル、七年六月、乃并野藩主、森俊春、之ヲ

管ス、天明四年、代官守屋弥惣、右衛門赴任シ、此ニ治

田ス、七年、早川八郎左衛門、文化中ニ至テ、遂ニ廢ス、

十二月十三日、幕府裁大谷山論、山論書類

八年六月二十七日、幕邑六村、代官岩出彦兵衛所管、

所管、宮尾領家、久米川、南、津山封内二村、神戶院ノ民、

上、久米川、南中、神代村、北、藤氏所領、久米、二、前、八、坪、井、下、村、

柴草ヲ大谷山、北、條、郡、坪、井、下、村、ニ、前、八、坪、井、下、村、

美作 卷之四 十五 村 賦 樓 藏

民之ヲ拒ム、明日又八村ノ民三百餘人、幻住寺山ニ會シ、異裝シ捧ヲ提ゲ、大谷山ニ入テ且廿ニ薙シトス、坪井下村ノ民之ヲ拒ミ、衆寡敵セズ、數人創ヲ被ル、於是坪井下村ノ民領主内藤氏ノ代官須永則茂源_{兵衛}、同ニ就キ、之ヲ止ムルヲ請フ、則茂遂ニ止ムル能ハズ、其後八村ノ民益兇暴、又四村_{南方中山手公文北里公}、南足山村ノ民ヲ誘ヒ、屢來リ薙ル、十一年五月、坪井下村庄屋庄左衛門及ビ弥惣兵衛等、其暴舉黙止スベカラザルヲ以テ、江戸ニ詣リ之ヲ訟フ、幕府乃チ十二村ノ民ヲ召ス、_{中北下村庄屋彦十郎、神代村庄屋惣助、神戶村庄屋彦兵衛等六}人、召ニ應ジ、是ヨリ對審數回、坪井下村ノ民辭アリ、

十二村ノ民卒ニ服ス、幕府乃チ十二村ノ民大谷山ニ入ルヲ禁ジ、贖金若干ヲ出サシム、是月、禁神祀佛會作新様。_{慶弘紀開。松平記録。}幕令ニ從ヒ之ヲ禁ズ、

十五年_{庚戌}。十月二十五日。藩造楮幣。_{紙幣發行觸書。玉置家記。中村家記。}

初元祿十三年十月、藩紙幣五種_{一文目五分、四分、三分、二分、一分}ヲ製シ、封内ニ流布ス、寶永四年十月、幕府ノ禁ニ属テ止ム、至是其禁ヲ解カルヲ以テ又之ヲ製シ、大年寄蔵

合孫左衛門_人、町齋藤孫右衛門_{元魚町}ニ命ジテ交換ノ事ヲ掌ラシム、_{後寶曆十年、山本三右衛門、茂渡市右衛門、川口藤十郎ニ命}

ジテ、專ラ交換ノ事ヲ掌ラシメ、名ケテ札元ト曰フ、

是歲。土岐賴稔領英田郡等内一萬四千石。松平記錄。地方書類。

賴稔保丹後守、駿河田中藩主、寬大坂城代二任、英田

岩邊、瀬戸、餘原、川北、勝南豐國原、北勝北真加部、河三

郡ノ内六十餘村ヲ領ス、解舍ヲ海内村ニ置キ、大庄

屋一人同村田ヲ撰用ス、後キ世話役ナル者ヲ置キ、

縣ニ至テ、北條事務ヲ執ラシム、明治五年

十六年。辛。六月。雨雹。松平記錄。電災屆書。

東北條、西北條、又米南條ノ三郡、害多シ、

八月。大風洪水。松平記錄。風水屆書。

十八年。癸。三月。長瀬賑飢民。松平記錄。

去年、山陰山陽二道凶歉ナリ、長瀬封内ノ饑民ニ鹽

及ビ麥ヲ賑ハス、

是歲。幕府置官廨于吉野郡下町村。代官所設置調

幕府古町村ノ官廨ヲ廢シ、更ニ下町村ニ置キ、代官

小林孫四郎ヲシテ治セシム、明年曾根五兵衛、孫四

元年、花井庄九郎之ニ代リ、幾ナクシテ死ス、平岡彦

兵衛、乃チ之ヲ兼又、二年、川田玄蕃之ニ代ル、延享二

年、十月、松平宗恭ノ郡吏又之ニ代ル、四

年、土屋篤直ノ所領ニ屬シ、遂ニ廢ス、

十九年。甲。植甘薯。松平記錄。地方書類。

甘薯ハ、本琉球ヨリ薩摩ニ傳フ、因テ薩摩薯ト稱ス、

是年、幕命ニ從ヒ、始テ之ヲ國中ニ植ユ、
二十年。乙。三月。長瀬賑貧窮民。地方書類。
河邊、井口、日上國分寺四村並勝、牛病傳播シ、去年ヨ

リ今年ニ至リ、斃ル、者一百四十八村民窮乏シ、復牛ヲ買、能ハズ、於是長瀬金穀ヲ賑貸シテ之ヲ購ハシム、

十月十三日。長瀬卒。長孝嗣。松平系圖。

長瀬享保十六年十二月從四位下ニ叙シ、越後守ニ

任ズ、至是江戸ニ卒ス、享年十六、法謚義子長孝庄次郎甫

テ十立テ封ヲ襲ク

是歲太田資晴領勝北郡内。東作誌。

資晴備中守上野館林藩主大坂城代ニ任シ、攝津備中及ヒ勝

北郡真如部河ノ内ヲ領ス、資晴辭舍ヲ備中此口部

五年三月卒ス、八月幕府之ヲ收メ、代官曾根五兵衛

松風考五郎ヲシハテ管セシム、考五郎ハ備中倉敷ニ

治ス、

櫻町天皇元文元年。丙辰。五月。洪水。松平記録。

四年。己未。三月。勝北郡騷擾。勝北騷動記。

先是幕邑勝北郡北野村藤九郎與三右衛門潜ニ因

幡ニ赴キ、其騷擾ニ乘ジテ、財物ヲ鹵掠ス、後恒ニ車

ヲ起シ財ヲ奪ント欲ス、是月二日、遂ニ村人平吉及

ヒ近藤村半四郎、作右衛門ヲ誘ヒ、口ヲ飢餓ニ籍キ、

連リニ富農ニ強迫シ、遠近ヲ煽動ス、四日、三十五村

是宗、宮内、北野、成松、高圓、久常、澤、柿、勝、加茂、西中、新野、西下、村等、ノ民、率、テ、皆、脅、從、ス、

時ニ代官曾根五兵衛下早村及ヒ備中倉敷ノ兩廨ヲ兼治ス、備中ニ在

リ、屬吏中九清助、大鳥多吉等、力ヲ竭シテ解諭シ、竟

ニ鎮定スル能ハズ、乃チ使ヲ馳セ兵ヲ津山藩ニ乞
 フ、藩物頭北郷門左衛門海老原多宮、藤本伴右衛門
 ヲシテ、兵二百五十人ヲ率テ赴キ援ケシム、五日、門
 左衛門等、新野東上村ニ抵リ、藤九郎等二千餘人、林
 日本野ノ二蔽シテ抗拒スルヲ聞キ、輒チ馳セ至ル、
 黨民大ニ喊ス、門左衛門等、乃チ其銳ヲ挫カント欲
 シ小銃ヲ發ス、黨民其丸無キヲ以テ屈セズ、於是巨
 礮二門ヲ置キ、連發シテ林ヲ射ル、枝葉墜紛、黨民奔
 潰ス、遂ニ之ヲ捕フ、幕府乃チ稻垣淡路守大坂早二
 命シテ之ヲ處セシム、十月二十三日、藤九郎與三右
 衛門ヲ大坂ニ斬リ、平吉等二十四人ヲ放シ、廣戸村

兵衛、廣岡村福本文左衛門、荒内村井戸傳右衛門、部
 民ヲ諭シテ之ニ黨セシメス、幕府因テ三人ニ白銀
 十枚ヲ賜ヒ之ヲ賞ス、特ニ與兵衛ハ窮民ヲ
 賑ハスヲ以テ、氏ヲ稱シ刀ヲ佩ルヲ許ルス、

四月雨雹

松平記錄。電害届書。

香々美庄諸村西北條郡及ヒ下森原村西條郡害多シ、

八月大風洪水

松平記錄。風水届書。

是歲丹羽薰氏領勝南郡等内一萬石寛保武鑑。地方書類。

薰氏和泉守ハ、氏次助ノ裔孫ナリ、初メ越後高柳一萬
 石ヲ食ム、至是勝南黒土、青木、北坂村等、吉野後山村等、二郡ノ内ヲ
 領シ、寨ヲ黒土村ニ築テ徙リ居ル、

寛保元年辛酉六月、東南條郡野村稻腐敗松平記錄。

二年壬戌四月、禁壅錢慶弘記聞。松平記錄。

瘞錢ハ棺ニ納ル者俗ニ所謂六道錢ナリ幕命二日
テ之ヲ禁ズ

是歲丹羽薰氏移封于播磨三草武鑑

三年癸亥四月雨雹風水

閏四月禁庶民麗飾慶弘記聞

幕令ニ從ヒ銀簪鬘櫛ヲ用ユルヲ禁ズ

延享二年乙丑七月朔森長記管英田郡等村上家記

長記對馬守播磨藩主代官根岸左衛門倉敷村河田玄

蕃下居村、所管英田土居竹吉野栗井中田駿勝南

原坂福力池、勝北久賀村久常村西谷久米南條前

尾京尾南畑福渡、高久米北條宮尾錦織南方六郡

内三萬四千六百五十石餘七村、ヲ管ス、寶曆十三年

米南條郡、内三十村北ム、後勝南郡羽仁行信

原、下谷、飯岡、王子村等、勝北郡新野上町川中島村等

東、北條郡、知和、東黒木村等、吉野郡茂津影石海内桑

野、東町、西町、村等、大庭郡久世村等、ヲ加フ、寛政六年

春、又、悉ク之ヲ収メ、脇坂安董稻垣藤四郎ニ命ジテ管セシム

十月、松平宗恭管吉野郡等地方書類

宗恭相模守同藩代官河田玄蕃、永田小左衛門村久二世

、沿ノ所管吉野五名、勝北上野田、東北條知和、阿西

條、奥津富西谷羽、西北條寺和田、大庭和村等、六郡

内七萬三千石餘ヲ管ス、其臣竹田治太郎、堀喜十郎、
大口權十郎等、來テ下町村ニ治ス、延享四年、吉野勝

半土屋氏、所領ト為ル、因テ久世村ニ移リ、治ス、寶

石黒小右衛門等
ヲシテ管セシム、

三年丙寅三月。巡見使至。松平日記。

小幡又三郎伊奈兵庫等之が使タリ、

桃園天皇延享四年丁卯四月。幕府移農民于稻穂村。東作誌。

記。村家

去年冬、稻穂村勝南ノ庄屋等窮乏シ、租税ヲ納ムル

能ハス、竟ニ高四十餘石ノ地ヲ棄テ、逃奔ス、於是

代官藤井九左衛門倉敷村幕令ヲ奉シ、西村七郎右

衛門ノ族八郎右衛門同郡田村ノ人、及ビ傳六十右衛門

共ニ同郡、塩ヲシテ移住セシメ、其地ヲ分テ給ス、

九月、大久保忠方領勝北郡等。江原村上調書。

忠方大藏太輔相模勝北高岡諸村廣久米南條福田

諸村、久米北條宮部通谷奥山寺油三郡ノ内、二萬四千

三百四十九石五村ヲ領ス、麻舎ヲ西川奥山二置キ、

大庄屋一人同村山寄ヲ撰用ス、後支麻澤村ヲ置

ス、文化十年二月、幕府寶曆五年二月、代官重田又兵

衛ヲシテ管セシム、寶曆五年二月、大久保氏楮欽

ヲ造リ、西川銀札ト名ツク、西川大黒屋其大坂天

寺屋其之ヲ掌ル、文政九年、濫出シテ交換スル扶ハ

遭フ者多シ、土屋篤直領吉野郡等。帳井上家記。

篤直左門後陸土浦藩主、吉野古町下町、勝北近長福井、田

二郡ノ地一萬九千八十石餘五村ヲ領シ、麻舎ヲ下

町村ニ置ク、後天明二年、大庄屋二人近長村甲田猪

勘三ノ撰用ス、寛政二年、幕府吉野郡一萬石ヲ收ム、
郎ニ至テ、豐岡縣ニ屬ス、

脇坂安興領真島郡内、巡見使割費、妹尾家記。

安興淡路守、播磨龍野藩主、真島郡草加部、中、栗原、二千四百六

十石餘ヲ領ス、中村ニ治シ、部長二人草加部、村、福島、

左衛門喜ヲ舉ク、明治五年ニ至リ、北條縣ニ屬ス、

仙石政辰領勝南郡内、帳見、使割費、地方書類。

政辰越前守、但馬出石藩主、勝南郡岡、妙見、八、田、為本、金井、三千

二百七十石餘ヲ領ス、大庄屋二人妙見、村、古田、次郎、

内ヲ撰任ス、仙石氏ハ、麻舎ヲ置カズ、天保六年十二月、

萬八千石ヲ統ハル、勝南郡ニ與カハル、

寶曆元年辛未。七月、浚加茂川、達船于綾部村。通船願書。

五年乙亥。八月二十四日、津山大風。玉置家記。

六年丙子。二月、長孝賑市民。松平記録。

九月十六日、大風雨。風水屆書。

八年戊寅。十月二十九日、幕府命長孝、拘本多忠英。矢吹日記、玉置家記。

忠英長門守、祿一萬石、幕府ノ以老夕リ、金森氏美濃藩主、

事ニ坐シ、職祿ヲ褫ハル、十二月九日、忠英津山ニ至

ル、長孝之ヲ城中ニ幽ス、天明八年七月八日、幕府忠英ノ罪ヲ免シ、其子兵庫忠

由ニ祿若干ヲ給ス、

十二月、製綿實油。綾油願書。

玉置源五兵衛、津山堺所ノ人、大始テ綿實油ヲ一方
村久米南二條郡、南二窄ル、

是歲代官藤本甚助檢管地。明細帳。

甚助ニ久世村管內東北條郡五村東黒木、小黒、青柳、

地ヲ丈量ス、後明和四年、森對馬守、亦勝北郡中島、新

衛、亦同郡植月北、勝加茂、東二村ヲ檢ス、五年、平岡彦六

九年巳卯二月晦、津山火。玉置家記。

火二階町高市屋六起リ、堺所京所、小性町四十五

戸ヲ延焼ス、

四月、藩革民政。玉置家記。

去年、長孝、佐々木九郎左衛門ノ理財ニ長スルヲ聞

キ、服部弥左衛門、上原彦市ト、共ニ勘定奉行ト為シ、

而ソ郡代兼町奉行井上弥三兵衛、勘定奉行栗田辰

右衛門、平野丹下ヲ免ス、至是、九郎左衛門等、庶政ヲ

釐革シ、大中庄屋ヲ廢シ、諸吟味役市吏ノヲ置キ、更

ニ諸稅ヲ増課ス、

六月、藩置郷倉。郷倉建築書。

郷倉ヲ神戸村西々郡、草加部村東北條郡、ニ置キ、其近村ノ

貢米ヲ徵聚シ、津山ニ運輸スルノ勞ヲ省ク、

十一月二十六日、津山火。玉置家記。

火安岡町綿屋告三起リ、茅町新屋敷ヲ焼込ス、

十一年巳辛三月、巡見使至。矢吹日記。

阿邊内記、杉原七十郎等之が使タリ、
八月十六日。藩置地方目附。地方書類。植月家記。

往キニ大中庄屋ヲ廢シ、庄屋ヲシテ其事務ヲ教ラ
シム、物情恟然タリ、於是地方目付ナル者ヲ置キ、前

大庄屋ヲ以テ之ニ任ズ、後復之ヲ大庄屋ト稱ス、
十二年。壬午。閏四月二十九日。長孝卒。子康致嗣。松平系圖。松平家譜。

長孝ハ、出雲廣瀬藩主松平近朝ノ第三子ナリ、初ノ
松平宣維出雲國主ニ子養セラレ、享保二十年十二月、長

熙ノ嗣ト為ル、元文三年十二月、從四位下ニ叙シ、越
後守ニ任ズ、寛延二年十二月、侍從ニ遷ル、至是、江戸

ニ卒ス、享年三十八。法謚隆照。世子康致光丸、甫立テ封テ

襲グ、

六月二十五日。大風。松平記録。大風届書。

加茂諸村東北條郡害多シ、

十二月。康致復復稅。編書。稅法。

先是、佐々木九郎左衛門等ノ改革スル所口、一モ民
心ニ適スル者ナシ、至是、稅法ヲ舊ニ復ス、

後櫻所天皇。寶曆十三年。癸未。六月。土井利里領久米南條
郡内一萬石餘。細間河原爭論書。坂手家記。久徳家記。

利里大炊頭、下總古河藩主、森對馬守、所管久米南條郡、内
三十村佐原、高尾、越尾、原田、ヲ領ス、安永五年十一月

削村ニ置ク、浦要右衛門等來リ治シ、河原伊右衛門
ヲ舉テ大庄屋ト為ス、九年、又其子雄右衛門ヲ舉テ

大庄屋ト為シ、父子同僚ヲ收メ、備中倉敷代官築山、茂府、佐良、高尾等十七村ヲ收メ、備中倉敷代官築山、茂之ヲ領ス、明治五年ニ至テ、北條縣ニ屬ス、復

明和元年、申、六月二十一日、三浦明次封于勝山。三浦系見家記。

明次、志摩代官竹垣庄蔵ニ治ス、ノ管内二萬三千石

真島郡一百七、ヲ領ス、九月、老臣九津見定羽、吉左、村、大庭郡一村、ヲ領ス、九月、老臣九津見定羽、吉左、等、來テ領邑ヲ收メ、寨ヲ勝山村、高田ニ築ク、七年八月十日、明次始テ封土ニ就ク、寛政九年十二月五日卒ス、

享年七十三、後矩次、志摩守、茂理ノ子、安永元年九

前次、志摩守、明次ノ子、安永九年五月、昆次、備後守、矩次

十三年四月、嗣、誠次、志摩守、前次ノ子、天保、峻次、誠次、

長子、天保二年、四、義次、備後守、誠次ノ弟、三日、天明次

志摩守、有馬日向守ノ子、弘化四年、十二、弘次、備後守、

第二子、萬延元年、二、顯次、玄蕃頭、弘次ノ子、明治元年、

九世相繼テ勝山ニ居ル、

三浦氏ハ、平義明、助、ヨリ出ツ、義明十五世ノ孫、正

次、志摩、寛永十六年、下野壬生ニ萬五千石ヲ領ス、

其孫明敬、志摩守、初、元禄四年、日向縣ニ移ル、正徳

二年、又三河新屋ニ移ル、傳テ明次ニ至リ、延享四

年、同列西尾ニ轉ス、至是、又勝山ニ轉ズ、先是、徳川

氏命ジテ、源姓ニ改メシム、

十二月、幕府賞稻垣隆秀。垣、孝義録、稻

垣、孝狀記。

二十五 村 賦 妻 氏

隆秀淡之ハ田殿村吉野ノ人芳隆小十郎第二子ナ

リ、字ハ子華、瀧下ト號ス、其先世森氏ニ仕テ、森氏國

除スルニ及テ、祖朝隆權兵衛退テ田殿村ニ居ル、隆秀

幼ニシテ孝順、學ヲ嗜テ倦マズ、年甫十一、出テ京師

兒玉氏ニ依ル、後大坂中井誠之ノ門ニ入り、業大ニ

進ム、播磨小笠原氏安志藩主ニ聘セラレ、顧問ト為ル、寶

曆四年、父芳隆ヲ播磨ニ迎ヘ、養ントス、芳隆曰ク、迎

養ノ厚キハ、歸艱ノ薄キニ若カスト、隆秀即チ決然

祿ヲ辞シテ歸ル、是ヨリ躬ヲ勤苦ヲ執リ、心ヲ盡シ

テ、養視ス、旦夕歡ヲ羨ケ、未ダ嘗テ以モ忤コトアラ

ズ、遠近皆其孝ヲ稱ス、管主森俊春對馬守長之ヲ聞

キ、遂ニ幕府ニ申禀ス、至是幕府白銀二百兩ヲ賜ヒ

俊春モ亦米十石ヲ餽テ之ヲ賞ス、芳隆時二年八十

三、隆秀四十三、誠之ノ二子積善、積德、及ビ中村有則

三宅正誼等、詩文ヲ贈テ之ヲ祝ス、積善又為ニ孝狀

ヲ作テ世ニ傳フ、

五年戊子十二月、康致定給養法松平記録。

先是、數、鰥寡孤獨ヲ賑ハス、而テ定法ナシ、於是給養

ノ額ヲ定メ、老者ハ終身、幼者ハ成童ニ至ルマデ之

ヲ救恤ス、後以テ恒例ト為ス、後文政元年七月、康孝

上二、年米二苞ヲ賜ヒ、九十五歲以

六年巳丑二月、久米南條郡騷擾矢吹日記、地方書類

森俊春ノ所管京尾、南畑諸村ノ民、其近村ヲ煽動シ、富豪ニ強迫シテ、財産ヲ掠奪ス、是月十七日、俊春士卒一百五十人ヲ遣シ、之ヲ鎮壓ス、倡首次郎右衛門村、京尾六次郎村南畑ノ二人ヲ斬ル、

六月八日洪水水害、水害、屆書。

七年庚寅、久世廣明領勝南郡等三萬三千石。天吹日記、地方書類。

廣明出雲守、下、総大坂城代ニ任ジ、森對馬守、内藤十

右衛門等ノ所管勝南勝間田、中山、宮山、安井、西北條

寺和田、年薪森原、貞永寺、東北條、東黒木、久米

北條等數郡ノ内ヲ領ス、老臣富田善右衛門代官八

木傳次郎等來テ勝間田村ニ治ス、安永三年、廣明閣

乃ヲ領ス、數郡ト為ル、地

後桃園天皇、明和八年卯、大旱。旱害、屆書。

五月ヨリ八月十日ニ至ルマデ、雨ヲラズ、

安永元年壬辰、八月、康致釐革藩政。松平記録、墮淚口碑。

康致、天資英明、豁度必ッシテ識度アリ、學ヲ好テ倦

マズ、嘗テ江戸ニ在リ、細川重賢肥後、上杉治憲出羽

藩ト友トシ善シ、遂ニ其治蹟ヲ景ヒ、大ニ庶政ヲ革

メント欲シ、儒士大村庄助肥後、山下官彌播磨、飯室

武中ヲ徵用ス、至是之ト得失利害ヲ討論シ、中外ノ

制度ヲ釐革シ、又鉛筭ヲ設ケテ、士民ノ讜言ヲ求ム、

是ヨリ言路大ニ開ケ、風俗一變ス、康致人ヲ用ユル、才ニ隨テ之ニ任

ズ、河井十寸茂ヲ文學ニ、信澤與左衛門ヲ劍術ニ、坂井善左衛門ヲ槍術ニ、佐藤八郎左衛門ヲ醫術ニ、且三河、人正木兵馬ヲ軍學ニ、出雲ノ人、尼子大造ヲ馬術ニ、用ヒ、或ハ岸權六ヲ卒ヨリ擢テ郡代ト為ス等、拔擢ヲ用ヒ、

十月、幕府賞春名猶右衛門。春名救助取調書。春名家記。

猶右衛門ハ倉敷村英田郡人ナリ、性仁慈博愛、常ニ窮民ヲ賑ハス、會禍難ニ遇フ者アレバ、遠近ヲ問ハズ、金穀ヲ寄贈ス、郷邑舉テ善人ト稱ス、管主森俊春乃チ村吏ニ命ジテ、其救恤セシ所ヲ查セシム、寶曆五年ヨリ茲ニ至テ、米一千七百苞、金十兩、銀七貫七百目ナリ、俊春竟ニ之ヲ幕府ニ申禀ス、幕府乃チ氏ヲ稱シ、刀ヲ佩ルルヲ許シ、物ヲ賜テ之ヲ賞ス、其子猶

右衛門初儀三郎、孫猶右衛門初嘉三郎、亦皆窮ヲ賑スヲ以テ

賞セラル、其三世救恤スル所口、文政二年八月二迄

テ、金十一兩、銀三十四貫二百目、錢四十八貫、文、米四

千四百五十八苞ナリト云、是ヨリ先、後、窮民ヲ賑ハ

ル者、高田村、金田市、郎右衛門、久世村、金田六郎、右衛門、下二箇山、手村治部、河原村、石川三郎、平、梶並、村、永幡、和平、行信、村、吹田、作山、上村、石戸、玉之助、馬形、村、豐福、三平、桑下、村、水島、增、藏、水島、敏、藏、等、ア、レ、非、ラ、ズ、皆、春、名、氏、ノ、比、ニ、

三年。甲午。夏。三浦矩次、壽、辻安兵衛母。辻家譜。

安兵衛ハ、鹿田村真島郡人ナリ、是年、其母宗族新次郎秀親ノ

女、ノ、齡、一、百、歳、ニ、滿、ル、ヲ、以、テ、藩、主、矩、次、俸、米、一、口、ヲ

給シテ之ヲ壽ス、十二月遂ニ死ス、

七年。戊戌。十月。禁穢民倨傲。松平記録。

近時、屠民乞者、農商ニ遜セズ、或ハ旅亭ニ雜宿スルヲ以テ之ヲ禁ズ、

八年。巳亥。土井利和、賞孝民菊右衛門及妻子。美作孝氏記。

菊右衛門ハ、原田東村久米南ノ人ナリ、妻ト共ニ父

母ニ事テ孝ヲ竭ス、二男一女アリ、亦皆孝順ナリ、世

傳テ美談ト為テ、領主土井利和大炊頭乃チ物ヲ與テ

之ヲ賞ス、菊右衛門、時二年五十、妻讚三十八、長子熊

孝格天皇。天明二年。壬寅。三月十一日。幕府決英田勝南郡

界。境論裁決書。

安永八年、三海田村森俊春所、入田村、領勝南郡、

郡界ヲ争ヒ、竟ニ幕府ニ訟フ、幕府乃チ代官守屋彌

惣右衛門ニ命ジテ之ヲ檢セシム、至是裁定ス、

三年。癸卯。五月二十六日。津山市人騷擾。玉置家記。

是年、米價騰貴ス、後藤屋孫市、烏屋富藏、以為ラク伏

見屋茂七、神田屋利兵衛等、米穀ヲ藏シ價ヲ待ツニ

由ルト、是夜、衆ヲ聚メテ茂七等ノ四家ヲ破壊ス、藩

乃チ孫市等ヲ捕ヘ、亦茂七等ヲ獄ニ繫グ、

八月九日。洪水。矢吹記。

十二月晦。大雨雪。日笠家記。

是日、津山市街雪ノルコト一尺九寸、明年正月三日ニ至リテ、猶ホ止マズ、積テ二尺五寸ニ及ブト云フ、

五年^乙二月。代官守屋彌惣右衛門^令部民為^中山荒之備。
布^上令書^地類。

彌惣右衛門^{久世村}、勝南^{金原殿所長内}、勝北^{田村等}

東北條^{字野戸賀知}、西北條^{寺和田真經}、西々條^{富仲}

谷馬場^{貞永寺}、久米北條^{錦織上打穴}、大庭^{久世下河}

上森原村等、久米北條^{足山村等}、大庭^{中島村}

等七郡、内五萬三千三百石餘ヲ管ス、是月部内ニ

令シテ、草根木實、糶糶ニ代フベキ者ヲ擇テ、山林

六年^丙八月二十九日。洪水^{水害}。

七年^丁十一月。堀田正順領吉野郡等四萬八千石^{矢吹}。

家神^記。

正順^{相模守後大藏大}、大坂城代ニ任ジ、森對馬守、早

川八郎左衛門守屋彌惣右衛門ノ所轄吉野^{海内森}

西町東町、勝南^{西吉田行信}、勝北^{新野東勝加茂}、東

條^{寺野}、西々條^{入山城貞大庭}、下^和六郡、内ヲ領ス、

其臣荒野佐兵衛、西山傳六等來テ西吉田村ニ治シ、

大庄屋一人^{同村神等}ヲ撰用ス、府^{寛政}之^{十一年}七月、幕

務大輔及^ビ早川八郎左衛門、

八年^戊。英田郡倉敷村火^{春名救助}。

去年、茅町二十五戸焼亡ス、是年、又西ガ濱、森ガ瀬、下

本町九十餘戸ヲ延焼ス、

寛政元年^己二月。巡見使至^{矢吹}。

石尾七兵衛花房仙五郎等之が使タリ、

八月。吉野郡尾根木溝成。高油家記。

先是尾崎川西兩村並吉野郡民後山川ニ堰ヲ築キ以

テ水ヲ引キ田ニ溉グ然ルニ堰稍下流ニ在ルヲ以

テ大水ゴトニ崩潰シ村民勞役ニ堪ヘズ川西村ノ

人高畑道貫宗九郎竹内久為治助相議シテ其堰ヲ上流

ニ移シ且暗溝長三丈六十ヲ鑿テ水ヲ通ズ去年十月工

ヲ興シ是ニ至テ竣ルヲ告グ後絶テ崩潰ノ患ナシ

同郡山手村與三右衛門村内觀音寺ヲ鑿テ水ヲ引

ク者元祿以前ニ係ル津山藩重臣佐久間上総久米

南條郡横山村寺岡彦太郎ト議シテ同村觀山ノ麓

ヲ鑿テ水ヲ八出村ニ通ズル者寛保先後ニ保ル共

ニ年月ヲ詳ニセズ姑ク附録

シ以テ傳フト云爾

十月。康致禁_三虛無僧入_二于封内。松平記錄。

近時、虛無僧施物ヲ貪禁シ、人民ヲ妨害ス、康致乃テ

其本寺京師明暗寺ニ諭シテ、封内ニ入ルヲ禁ズ、後

岐氏モ亦之ヲ禁ズ

二年。庚戌英田郡倉敷村大火。春名救助取調書。

上茅町、上木町、上町、一百餘戸焼亡ス、

三年。辛亥十二月。康致賞孝女陶登美。孝義錄。美作孝民記。

登美ハ八出村久米南條郡中庄屋陶政右衛門ノ女ナリ、

生テ九歳母ノ疾ニ屬フ時ニ政右衛門村務繁劇、顧

視スルニ違ナシ、登美晝夜侍養シ、餘カアレバ則チ

紡績シ、以テ家計ヲ助ク、於是康致厚ク之ヲ賞ス、

四年。壬子。七月二十六日。大風。矢吹日記。

堀田氏領内ノ民舎多ク倒レ、廨舎モ亦倒ル、

五年。癸丑。正月。定捕盜之約。松平記録。

板倉勝駿備中松山藩主、封内強盜頗ル多シ、勝駿乃チ三

備、藝作、因伯ノ諸藩ニ謀リ、又幕府ニ稟議シテ、幕藩

、別ナク、官民戮カシ、之ヲ逮捕センコトヲ約ス、

三月。康致追賞玉置惠吉。東作誌。玉置家記。

惠吉ハ、林田中之町ノ人、性謹厚慈惠喜テ窮民ヲ恤

ム、終ニ臨ミ白銀千枚ヲ男守左衛門ニ附シ、且囑シ

テ曰ク、津山市街書籍ニ乏シ、此レ市人ノ學ヲ知ラ

ザル所以ナリ、吾嘗テ之ヲ購求シ、廣ク其講讀ヲ資

ケント欲シ、遂ニ果サズ、汝チ之ヲ藩主ニ獻ジ、以テ

購書ノ資ニ供セヨト、守左衛門乃チ具申ス、藩主康致

之ヲ嘉納シ、守左衛門及ビ其弟義七郎清右衛門ニ

各俸米三口ヲ賜フ、而テ特一字左衛門ニ雙刀ヲ佩

ルヲ許シ、以テ惠吉ヲ追賞ス、後儒臣稻垣武十郎茂

性町ニ創設シ、市人ヲ教育ス、此ヨリ後、市人學ニ向フ者多シト云フ、

康哉。設育兒法。松平記録。

康哉康致改名、育兒法ヲ設ケ、墮胎ヲ嚴禁シ、棄兒ヲ養育

ス、育兒法ハ、銀四十貫目ヲ以テ、一年ノ定額ト為シ、

藩主其三分ノ二ヲ出シ、其餘ヲ有志ノ士民ニ募

ル、貧民ノ見ヲ育スル能ハザルモノハ、米三苞ヲ給

シ、以テ醫亂ニ至ル、其赤貧ノ者ハ、成童ニ至ルマテ

是歲勝南郡湯鄉村大火。春名救助取調書。

六年甲寅正月。下谷村捕松生根。東作誌。福田家記。福

是月二日、下谷村勝南郡梶兵衛、鋏初式ヲ行ヒ、松枝ヲ

折テ地ニ插ス、遂ニ根ヲ生ジテ繁茂ス、因テ鋏初松

ト稱ス、出雲上官、其他多ク和歌ヲ贈テ之ヲ祝ス、今

シテ雙枝アリ、一ノ枝ト曰フ、餘枝重疊、皆水

平ニシテ四方ニ張ル、真ニ一奇觀ト為ス、

春。脇坂安董、管英田郡等。地方書類。

安董中務太輔、攝津守、後ノ所轄、英田竹土居

倉敷、勝南岩見田、飯岡、藤田、久米南條、神目、福渡、久米

北條、錦織、桑四郡ノ内ヲ管ス、後又勝南、勝北、告作、三

北條、村等、餘皆明治元五年至野郡諸村ヲ致ス、此

八月十九日。康哉卒。子康入嗣。松平系圖。松平家譜。陸渼口碑。

康哉、明和三年十二月、從四位下ニ叙シ、越後守ニ任

ズ、安永六年十二月、侍從ニ遷ル、至是江戸ニ卒ス、享

年四十有三。法謚、世子康入、仙千代、甫立テ封ヲ襲ク、

康哉、嘗テ藩臣ノ奢倭ヲ視テ、之ヲ禁ゼント欲シ、躬

自ラ儉素ヲ極ム、是ヨリ奢倭ノ風遂ニ止ム、冬夜宴

飲ス、酒酣ニ耳熱シ、戚然ヲ想ヒ、覺、ス此ニ至ルト、即

ク、吾俄ニ獄ニ遣シテ物ヲ賜フ、其

下ヲ愛恤スル、概ネ此類ナリ、

七年乙卯八月二十九日。洪水。水害。屆書。

津山市街及ビ倉敷村水ニ浸サル、

十年戊午六月。幕邑民請哀于幕府。毅代改。正願書。先是幕制、徵租三分ノ一ヲ以テ金納ト為シ、而ソ津

山市街ノ米價十月後半ノ均價ヲ以テ乘率ト為ス、ニ據ラシム、去年
 八月幕府更ニ令シテ、津山藩雜賣ノ價ニ據ラシム、
 幕邑ノ民大ニ憂ヒ、龍野久世生野ノ官廨ニ就テ歎
 訴シ、聽サレズ、於是岡伊八郎池ノ所管勝南ノ人、脇坂氏
 久米北條三郡、竹内弥兵衛廣戸村ノ人、指垣藤四郎
 ノ内七十七村、福島甚三郎目木村ノ人、早川八郎
 西々條西北條五村、國廣利石衛門中山村ノ人、野村權九郎
 大庭二郡、國廣利石衛門中山村ノ人、野村權九郎
 内六十二村、幕邑二百二十八村ノ民二代テ江戸ニ抵
 村ノ四人、幕邑二百二十八村ノ民二代テ江戸ニ抵
 リ、柳生主膳正ニ由テ、舊制ニ復サシコトヲ請フ、幕
 府遂ニ之ヲ許ルス、
 十一年。起。三月。代官早川八郎左衛門。頒教則于部内。一世久

條教。地方書類。

八郎左衛門二世村ハ東北條西北條西々條大庭四
 郡ノ内、及ヒ備中ノ地若干ヲ管ス、刑政清明、部民淳
 化ス、嘗テ典學館ヲ久世ニ、敬業館ヲ笠岡備中ニ設ケ、
 部内ノ子弟ヲ教育ス、至是、自ラ訓誡ヲ著シテ、部内
 二頒チ、名ケテ久世條教ト曰フ、初八郎左衛門、久米北
天明八年、森氏ノ所轄ト為ル、
 十月二日、幕府裁下原古川村等境界。境論裁
 先是、幕邑下原、薪森原兩村西々條郡、津山封内真加部宗
 枝、古川、吉原四村並同ト疆界ヲ爭ヒ、竟ニ幕府ニ訟
 フ、幕府乃チ代官野村權九郎但馬生野ニ命ジ、來テ

之ヲ檢セシム、至是津山川ノ中央ヲ以テ境ト為ス、

十二年。庚申。十月二十六日。幕府賞森本貞治郎。美作孝民記。

貞治郎ハ、幕邑宇野村。東北條郡ノ人ナリ、資性仁慈、好テ

窮民ヲ賑ハス、又父母ニ孝事スルヲ以テ世ニ著ハ

ル、先領主堀田正順、曾テ之ヲ賞ス、至是早川八郎左

衛門具申シテ、氏ヲ稱シ刀ヲ佩ルヲ許ルシ、以テ之

ヲ旌ハス、

享和元年。辛酉。四月二十三日。雨雹。電害屆書。村上家記。

久米南條。横山北一方、古村等、西々條院庄、

神戶等數郡、麥菜收穫ナシ、

文化元年。甲子。四月。康又置勸農所。松平記錄。

康又勸農所ヲ城南新坐ニ設ケ、田園若干ヲ附シ、封

内ノ惰民ヲ驅テ、此ニ役セシメ、兼テ教諭ヲ加フ、蓋

シ郡吏佐藤嘉之。郷左衛門ノ建議ニ由ルナリ、後天保未

松、建議シテ督業場ヲ其旁ニ置キ、市民ノ怠惰ナル

者ニ命ジテ業ヲ營マシム、其能ク志ヲ改メ、復ニ堪

シテ之ヲ遣歸ス、
二年。乙丑。七月十三日。康又卒。克孝嗣。松平系圖。鹽波口碑。

康又、寛政十一年十二月、從四位下ニ叙シ、越後守ニ

任ス、至是江戸ニ卒ス、享年厘ニ二十。法謚、弟克孝三

郎、年甫ノ嗣グ、康又幼ニシテ學ヲ嗜ミ、昕夕懈ラズ、

愚ト為ス、十七歳、初テ封土ニ就キ、政ヲ執ル、事壅滯

ナク、自ラ規度ニ中ル、中外皆其明ニ服シ、頌ル望ヲ

屬ス、卒スルニ及ビ、惜惋止マズ、後ノ稱ス、

三年。丙寅。大旱。旱害。屆書。

五月五日ヨリ七月七日ニ至ルマデ、雨フラズ、

四年。丁卯。松平乘保領勝南郡内。地方。書類。

乘保。能登守、美濃勝南郡書副、田吉田、ノ内ヲ領ス、其

臣大野段右衛門佐藤勘平等來テ勝間田村ニ治ス、

文化七年、乘保西丸老中ニ任ズ、幕府乃チ之ヲ收メ、代官恩田新八郎ニ命ジテ管セシム、

五年。戊辰。六月二十九日。加茂川洪水。水害。屆書。

是日、大風雨、加茂川暴ニ漲リ、沿岸大ニ崩ル、

六年。己巳。正月十九日。津山城災。松平記録。村上家記。

是夜火、内城ニ起リ、翌日刻ニ及デ熄ユ、鼓卒中谷増

馳リ、火將ニ及ントシムルモ下ラズ、老臣永見駿河、人ヲ

下ナリ、故ニ國老ノ命ト雖ドモ下ル可ラズト、駿河即チ中奥目付某ニ令ス、某命ヲ傳フ、増助乃チ徐ニ時ヲ報ジテ後、權ヲ下ルト云、

七年。庚午。四月二十三日。雷鳴雨雹。雹害。屆書。

東南條。本郷野、東北條。横野、大篠、勝南村等、諸郡害多

シ、

九年。壬申。六月。康孝修院庄舊跡。松平記録。高

康孝。克孝ノ院庄舊跡ノ樹木枯朽スルヲ以テ、松櫻

數株ヲ栽ユ、又其臣廣瀬清風。雲太夫、臺山ト號ス、二

命ジテ、兒島氏ノ古像ヲ描寫シ、小島廣厚ニ記ヲ撰

ビ、太田貞幹。鳥山トニ之ヲ書セシメ、以テ世ニ刊布

ス、是時、兒島氏ノ像、一宮村觀音寺ニ在リ、記中四百

ナリ、院庄作樂神社ニ遷祀ス、

九月十七日。康孝管西々條郡等地。松平 記録。

康孝代官山田常右衛門、恩田新八郎ノ所管、西々條

下原、新森原、黒木、大庭、河内、目木、久、二郡、及び備中阿

西屋、奥津村等、賀、川上二郡、四萬七千石餘ヲ管ス、天保十年ニ至リ、

備中二郡ハ、倉敷

十一月十九日。勝北郡楮村大火。東作 誌。

十年。癸酉。康孝令封内蓄穀。松平 記録。

當是時、封内殷富、家給リ人足ル、康孝郡代三浦十郎

左衛門ニ命ジテ、封内ニ諭告シ、禾穀ヲ蓄積シ凶荒

ニ備ヘシム、領民乃チ八千九百七十石ヲ積ム、初メ

藩粟所謂、若千ヲ城中ニ蓄フ、至是、益之ガ備ヲ為

ス、

十二年。乙亥。春。松平信行領勝北郡等地。山崎家記、

信行山城守、出羽上ノ山藩主、實ハ津、重田又兵衛ノ

所管、勝北澤村、久米南條押淵、久米北條上打、角石

東村三郡ノ内一萬二千五百六十七石餘ヲ領ス、其

臣中山四郎右衛門上打、穴里村ニ來リ治シ、大庄屋

一人同村山寄ヲ撰用ス、後文政元年、幕府之ヲ收メ、

是歲、美作孝民記刻成。美作 孝民記。

甲田行喜平助、勝北郡近長村ノ人、醫、孝義録寛政中、

所編輯スルノ疎略ナルヲ憾シ、見聞ニ隨テ詳記シ、且

近時節孝ノ賞ヲ被ル者ヲ集録シ、以テ之ヲ補ヒ、十卷ト為シ、美作孝民記ト名ツク、幾ナクシテ死ス、領主土屋彦直中相模行喜ノ子良藏ニ金若干ヲ與ヘ梓ニ上セシム、小竹篠寄弼之ガ叙ヲ作り世ニ行ハル、十三年丙子八月、正木輝雄建、佐良山碑于嵯峨山佐良山碑文、作陽誌、東

佐良山ハ、佐良莊久米南條郡、○佐良庄、初メ大邑タリ、割テ暮田、古城、中島、高尾四村ヲ置ク、山岳ノ泛稱ナリ、而テ嵯峨山村、中島ハ津山川ニ臨ミ、風景稍佳ナルヲ以テ、或ハ古歌詠スル所ノ佐良山ト為ス、輝雄馬兵衛因テ同志者ニ謀リ、碑ヲ其山頂ニ建テ、以テ之ヲ表ス、按ニ、今佐良村ノ人、村内ノ嵯峨山ノ為シ、中島村ノ

人、亦其差哉山ヲ以テ、佐良山ト為ス、而ノ皆是ニアラズ、蓋シ其泛稱ナルヲ知ラザルヲ以テ、○輝雄作陽誌ヲ追補セシト欲シ、文化十年、東六郡ヲ歴遊シ、見聞ニ隨テ風土ヲ詳記ス、十二年ニ至テ稿ヲ脱ス、後名テ東作誌、或ハ追補作陽誌ト曰フ、

閏八月六日、幕府壽村瀬九郎右衛門東作

九郎右衛門ハ、下谷村勝南郡ノ人、梶兵衛ノ兄ナリ、幕府其齡一百歳ニ滿ルヲ以テ、米十苞ヲ賜ヒ、管主脇坂安董モ亦五苞ヲ贈テ之ヲ壽ス、明年十二月、病テ死ス、

冬、康孝設救助法松平記録

火災ニ遭フ者ノ為ニ、家財農具等ヲ給スルノ法ヲ定ム、俗ニ之ヲ火事遭手營ト稱ス、

仁孝天皇。文化十四年。丁十月七日。康孝領勝南郡等内五萬石。松平記録。地方書類。

康孝勝南勝坂安董管内、北个原、畑屋東吉田、中山、青木、殿所、與大谷、吉留、稻穂、鹽氣、村等、平岡、彦兵衛、管内、則平、下香山、黑土、勝間田、勝北、安董、所、野河、黑坂、福力、金井、西吉田、新田、村等、勝北、面、備、上、野、田、村、東、北、條、彦、兵、衛、所、管、小、淵、齋、野、谷、青、柳、西、々、條、康、孝、等、下、原、薪、森、原、村、等、彦、兵、衛、所、管、山、城、大、楠、富、仲、間、高、山、土、生、上、森、原、馬、場、塚、谷、八、久、田、下、原、河、本、貞、永、寺、村、等、久、米、北、條、安、董、管、内、錦、織、村、大、原、四、郎、右、大、庭、内、河、内、湯、本、村、等、六、郡、内、五、萬、石、ヲ、領、ス、明、年、三、月、郡、代、三、浦、十、郎、左、衛、門、預、所、奉、行、大、村、成、夫、等、之、ヲ、收、ム、右、衛、門、八、備、中、倉、敷、二、居、ル、彦、兵、衛、八、丹、後、久、美、濱、二、居、ル、先、是、彦、兵、衛、恩、田、新、八、郎、二、代、リ、未、ダ、之、ヲ、收、メ、ズ、シ、テ、松、平、氏、ノ、所、領、ト、為、ル、

文政二年。己卯。八月。幕府令均物價。低價。觸書。

是年、諸國米價低下シテ、諸物價昂貴ス、幕府令シテ之ヲ平均セシム、本州ノ諸物價、乃チ五分ノ一ヲ減殺ス、

五年。壬午。四月。大風雨。地方書類。

六年。癸未。三月。三浦毘次建碑于西河内村。碑文。井手家記。

先是。安永七年。西河内村真島郡。ノ民、陂池ヲ開鑿セントシ、古墳ノ堆立ヲ成ス者ヲ掘リ、陶器、金銀環及ヒ巨劍ヲ出ス、劍長三尺七寸、廣一寸八分、莖六寸餘、村民以テ藥師寺九右衛門ノ墓ト為ス、藩主三浦矩次之ヲ奇トシ、文ヲ撰ビ、碑ヲ立ント欲シ、果サスシテ卒

至是毘次其志ヲ繼ギ為テ建ツ、九右衛門ハ永祿中ノ人、毛利氏ニ仕ヘ此村ニ居ル、即チ村人、築師寺井手諸氏ノ祖ナリ、按ニ葬事ニ金銀環及ビ陶器ヲ用ユル者ハ、鎌倉建府以前ニ係リ、而テ其後ノ事ニ非ラス、三浦氏既ニ此ニ見ルアリ、碑文中、九右衛門ノ墓ニ非ラズト為ス、

是歲堀坂村暗溝成。本郷家記。

堀坂村勝北郡ハ加茂川ノ上リニ在リ、而ノ地高シテ水低ク、灌溉ニ便ナラス、去年二月、村人山本吉次郎、曾根與右衛門、左子藤兵衛、曾根源、吉杉、田健次郎、本郷甚蔵等、代官龜田清助土屋氏臣ニ請ヒ、加茂川ノ水ヲ引キ之ニ溉ントシ、村内釜ガ口ヲ開鑿ス、至是暗溝三十三間溝高九尺、廣六尺餘、功ヲ竣ル、

八年乙酉十二月金井植月諸村民騷擾。松平日記、矢吹日記。

幕邑植月北村勝北郡津山封内金井村勝南郡等ノ民騷

擾シ、近邑ヲ煽動ス、津山龍野兩藩兵ヲ出シテ之ヲ鎮壓ス、

十年丁亥十二月二十一日幕府裁大庭真島郡界。境論裁決書。

文政紀元津山封内西原村大庭郡勝山領邑、垂水村真島郡ト郡界ヲ争ヒ訟ヲ為ス、幕府乃チ代官荒井平兵

衛ニ命ジテ、實境ヲ檢按セシム、至是高田川ノ西岸ヲ劃シテ郡界ト為ス、

十一年戊子六月大風雨。地方書類。

十二年己丑七月大風雨。地方書類。

天保二年。辛卯。十一月二十二日。齊孝致仕。齊民嗣。松平系圖。松平

記。錄。

齊孝康孝ノ改稱。文化二年十二月、從四位下ニ叙シ、越後守ニ任ズ、十年十二月、侍從ニ拜ス、文政二年十二月、左近衛權少將ニ轉ズ、七年三月、從四位上ニ進ニ名ヲ齊孝ト改ム、十二年十二月、左近衛權中將ニ遷ル、至是、義子齊民權少將、兼三河守、年甫テ十八、ヲ立テ嗣ト為シ、別第ヲ城北ニ起シテ徙居ス、別第ハ、迎賓館ノ西ニアリ、西御殿ト稱ス、天保九年二月三日、遂ニ卒ス、享年五十一、法諡成祐。
六年。乙未。齊民移農民于小田中村廣原山。松平記錄。地方書類。
慶長中、森氏、津山城材ヲ廣原山ニ伐リ、開墾シテ壟

圃ト為ス、後漸ク荒蕪ス、至是、郡吏佐藤嘉猷、左、右、建、助。議シテ安藝ノ人十數戸ヲ移シ、之ヲ再墾セシム、是ヨリ農民ノ自ラ来リ耕ス者頗ル多シ、天保十二年、齊民、又出雲ノ人十餘戸ヲ林田村丹後山ニ居キ耕墾セシム、
七年。丙申。九月。松平齊厚領久米北條郡内八千四百石餘。地方書類。矢吹日記。

是年三月、幕府齊厚右近將監、七野館、林藩主、封六萬石、ヲ石見濱田ニ移ス、其地封ニ盈タザルヲ以テ、久米北條郡十七村備中倉敷代官築山茂左衛門所管ヲ領ス、大庄屋二公文、神代和田北角石祖母村等、明治五年ニ至リ、人知田北村福山元太郎、撰任ス、北條縣ニ屬ス、十月、齊民賑郷市。松平記錄。

先是五月二十一日ヨリ、六月十五日ニ至ルマデ、晝夜雨降り、稻梁熟セズ、於是齊民大ニ倉粟ヲ發シ、以テ貧民ヲ賑ハス、

八年。丁酉。二月。幕府命齊民正國圖。松平記録。地方書類。

齊民命ヲ奉ジ、元祿以後、河流道路ノ沿革ヲ校正シテ之ヲ上ル、

四月。饑疫並作。地方書類。

去年凶歉、百姓大ニ饑ユ、藩主及ビ幕吏之ヲ救恤スレドモ、偏ク給スル能ハズ、饑民遂ニ流離シテ、草根木皮ヲ啖フ、至此、疫病大ニ行ハレ、死スル者算ナシ、

九年。戊戌。三月。齊民請幕府易地。松平記録。地方書類。

曩キニ、齊民封内ノ地ヲ交換センコトヲ請フ、於是

幕府東北條小淵山下、青柳戸賀村等、西々條山城大楠、富仲、大庭

徳山福田、三郡ノ内ヲ收メ、英田脇坂安董管内、吉野

湯本村等、代官和田主馬管内、勝南安董管内飯岡、中尾、瓜生

井、小野鷺巢、小房村等、原村等、主馬所管周佐、百

百、妙見、入三郡ノ内及ビ讚岐小豆島六村築山茂左衛門所管

池田土庄、淵等、肥ヲ賜フ、而テ仍ホ舊封ノ地ヲ管ス、

四月。巡見使至。松平記録。矢吹日記。

吉田太郎等、之ガ使タリ、巡見使ハ、徳川氏、將軍職ヲ

藩ノ政治、及ビ民情ヲ觀察セシム、是ヨリテ、差遣シ、諸

後、國家漸ク多事ナルヲ以テ、遂ニ廢ス、
七月二十一日。香々美川洪水。水害届書。

八月十日、又降水、沿岸大ニ崩ル、

十二年。辛丑。四月、管勝重請幕府為脇坂氏所管。矢吹日記。管家記。

是年二月、脇坂安董卒ス、蓋シ幕例管主死スレバ則

チ邑ヲ收ム、於是安董所管英田、吉野、勝南、勝北、久米

南條、久米北條、六郡、民仍ホ其管轄為ラントシ、之

ヲ幕府ニ請ハント欲ス、管勝重善三郎、久米南條、躬

自ラ之ニ任ジ、江戸ニ至ル、四月二十一日、安董ノ子

安宅淡路嗣デ立ツ、勝重乃チ書ヲ作り、之ヲ鋸簡ニ

投ズ、明且、又閣老太田備中守ヲ路ニ要シテ書ヲ上

ル、備中守書ヲ取り、命ジテ勝重ヲ檻舎ニ繫グ、幕府

訴スル者ハ、則チ檻舎ニ繫グ、亦其例ナリ、晡時、幕府勝重ヲ召シ、慰諭シ

テ之ヲ旅舎ニ托ス、五月二日、又安宅ニ属ス、幾ナグ
シテ安宅ノ所管ト為ル、

十三年。壬寅。春、瓜生原村溝成。目瀨家記。

瓜生原村勝南郡ハ、津山川ニ沿ヒ、而テ地高ク灌漑ニ

便ナラズ、是春、村人目瀨與六郎、自ラ資ヲ捐テ溝ヲ

鑿チ、日上村同郡ヨリ、加茂川ノ水ヲ引テ之ニ漑グ、

十月、松平齊宣領吉野郡内。高畑家記。地方書類。

齊宣兵部大輔、播磨吉野郡脇坂安宅所管海内、桑野、水

官大草太郎左衛門所轄川西、荻津、ノ内九千八百五

十餘石ヲ領ス、下町村ニ治シ、大庄屋一人川西村高

門ヲ撰任ス、明治五年ニ至リ、北條縣ニ隸ス、

弘化三年^{丙午}三月。池田筑後守領上打穴里村。山寄家記。

筑後守^{幕府麾下ノ士}。備脇坂氏ノ所管上打穴里村

久米北ノ内三百十六石餘ヲ領ス、^{丈久三年冬筑後}守幕命ヲ以テ歐

羅巴洲ニ赴キ其所置ヲ失シテ邑ヲ收メラル

六月。置義倉于津山。玉置家記。

先是町奉行稻垣茂松、義倉ヲ設ケ穀ヲ儲ヘ、以テ凶

荒ニ備シコトヲ建議ス、齊民之ヲ嘉納ス、乃チ町奉

行馬場貞觀^{五郎}及ビ大年寄藏合孫左衛門、齋藤孫

右衛門、玉置六郎左衛門ニ命ジ、富商ニ勸諭シテ穀

ヲ積シム、至是義倉ヲ京町ニ設ク、

土屋采女正遣老臣慰諭領民。美作鏡甲田家記。

老臣鈴木内匠、用人藤井縫右衛門、吉野勝北二郡ノ

領邑ヲ巡視シ、親シク采女正ノ命ヲ傳フ、辭意懇到、

聽ク者感泣セザルナシ、

孝明天皇。嘉永元年^{戊申}三月二十八日。齊民旌孝子政太

郎。褒賞申立書玉置家記。

政太郎ハ、津山吹屋町川口屋吉右衛門ノ子ナリ、天

保十四年、吉右衛門罪アリ終身獄ニ處セラル、政太

郎年甫テ十四、官ニ詣リ身ヲ以テ之ニ代ルヲ請フ、

允サレズ、乃チ傭役シ以テ衣食ヲ得之ヲ獄ニ遣ル、

弘化四年五月、父ノ疾ムヲ聞キ、又獄ニ入り侍養ス

ルヲ請フ、藩遂ニ之ヲ許ルス、政太郎大ニ悦ビ、勤劬

備サニ至ル、於是、齊民其孝志ヲ嘉稱シ、吉右衛門ノ
罪ヲ釋シ、政太郎ニ金若干ヲ賜ヒ、其家役ヲ蠲キ、以
テ之ヲ旌ハス、

四年。辛。四月。土岐山城守。遣老臣慰問領民。矢吹
一日記。

老臣脇屋衛門来テ領邑ヲ巡視ス、

五年。壬。八月二十二日。洪水。水害
届書。

津山川暴ニ漲リ、市街大半水ニ浸サル、

六年。癸。夏大旱。旱害
届書。

安政元年。甲。十一月五日。地震。矢吹
日記。

二年。乙。五月三日。齊民致仕、慶倫嗣。松平系圖
松平記録。

齊民幼名銀
之助。ハ、大將軍德川家齊ノ第十四子ナリ、文

化十四年九月、齊孝ニ養ハル、文政七年三月、從四位
上ニ叙シ、侍從兼三河守ニ任ズ、九年十二月、左近衛
權少將ニ轉ズ、天保六年十二月、正四位下左近衛權
中將ニ拜ス、八年八月、正四位上ニ進ム、弘化四年十
二月、越後守ニ遷ル、至是、世子慶倫少將、兼
三河守。ヲシテ封
ヲ襲ガシメ、江戸姿見邸ニ退隱シテ確堂ト號ス、

三年。丙。高倉溝成。

嘉永六年、上高倉下高倉草加部並東北
條郡。野東南
條郡。四村、

早害頗ル多シ、其明年、保田平兵衛野村
人。今井頼治草
加

部村、香山定右衛門上高倉
村ノ人。米井彦右衛門下高倉
村ノ人。等

相謀リ、堰堰ハ東北條郡
吉見村ニ屬ス。ヲ築キ溝ヲ鑿キ、加茂川

水ヲ引キ以テ之ニ漑ガント欲シ之ヲ津山藩ニ請
 フ藩乃チ平兵衛及ビ香山淺四郎野介代村ノ人和由次郎
 左衛門上河原村ノ人安黒又右衛門大藤村ノ人等ニ命ジテ功
 ナ起サシム此ニ至テ三年遂ニ成ル
 五年戊午十一月慶倫修學館

先是闔藩ノ子弟學業ヲ修ムル者頗ル流派アリ而
 テ萎靡振ハズ藩臣山本戡恭次郎以為ラク文武ノ進
 歩ハ其派ヲ介タザルニ在リト因テ建議ス慶倫之
 ヲ善トシ乃チ植原正方六郎左衛門ヲシテ學館ヲ補苴
 シ學制ヲ恢張セシメ而テ師ヲ聚メ業ヲ授ケ其俊
 秀ナル者ヲ擇ビ資ヲ給シテ游學セシム此ヨリ文

武ノ業大ニ進ム後明治四年又講堂ヲ増築ス規模
 頗ル宏壯ナリ名ケテ修道館ト曰フ齊民扁額ヲ書
 シ以テ掲グ

萬延元年庚辰三月三十日雷鳴雨雹雹害

文久元年辛酉四月二十九日院庄村島田馬之丞妻女共

伏歿死島田母子碑

是月二十五日馬之丞罪アリ獄ニ繫ガル其妻女悲
 泣シテ措カズ遂ニ自殺シ以テ其罪ヲ贖ハント欲
 シ共ニ歿ニ伏シテ死ス藩主慶倫之ヲ嘉シ即チ馬
 之丞ヲ釋シ俸米ニ口ヲ給フ後慶應三年又其臣鞍
 懸吉寅寅ニ命ジテ文ヲ撰シメ碑ヲ其宅趾ニ建

テ、題シテ貞烈純孝島田母子之碑ト曰ク略ニ云ク、
雙烈女曰中、曰淺野、中者勝山士人高山某女也、幼失
怙恃、來居於院庄村、村豪島田茂内、怜而育之、嫁支族
馬之丞、生一女、即淺野、淺野敏而美、嘗納婿、有故去、不
再醮、馬丞多病、不任農事、島田氏近時家道益落、不能
濟恤、以故婦女矻矻勤辛、晝耕夜作、三十年如一日、馬
丞不忍見婦女備嘗艱苦、以奉于已也、竊某家酒糟若
干、售之、家人頗疑、無故得金、問之、曰、是借之於某家也、
既而事發覺、馬丞繫獄、婦女驚且泣、欲共訴、郡麻代夫
父茂内子治作、素與馬丞善、為慰諭、婦女以安之、有定
助者、亦支族、獨家富齒高、怒馬丞浼宗族、痛罵婦女、且

曰、必無生理、婦女慨歎慟、自謂往訴無益、不若身死
代之、而雪家辱、請治作借二百錢、以具酒肴、三人齊飲、
暗告訣、夜深治作去、乃作書置几上、中把屠魚刀刺喉、
淺野剖胸以摘菜刀、未殊、慮遺書無人知、蹣跚詣鄰家、
將言、聲氣漏、語不了了、時天未白、鄰媪怪起、執燭照之、
見流血淋漓、大驚、淺野手指其乳、又指東方、而合掌良
久、蓋乳父國讀同訓、而父在獄于東、其意請贖父之謂
也、媪未解、左手撫其背、右手塞其刀痕、然後微息奄奄、
始達其意、媪領之、淺野莞爾而瞑、中年四十五、淺野年
二十八、遺書上、郡宰即日釋馬丞歸其家、命村人厚葬、
諸村南某原、馬丞恨悔自剃髮、入村中清眼寺、為修其

冥福遺書三通皆係淺野手筆一上郡解云盜竊者妾母子非父也自殺以謝願釋其縛妾父近來有逆上疾言語孟浪難辨恐自誣幸勿信又恒多病願命親族以賜撫視二貽治作三貽里正及伍長皆懇懃託後事云○
二當時ノ郡宰ハ佐藤郷左衛門嘉告ナリ

三年癸亥二月慶倫奉勅入朝。

先是外國交際ノ事ヲ以テ朝議幕論相協ハズ薩長土因備諸藩勅ヲ奉ジテ入朝ス慶倫モ亦其間ニ周旋セント欲シ未果サズ去年十二月重臣黒田成復彦四及ビ藤本真臣十兵衛柳原景長平次郎井汲貫唯一矢吹正則治ノ五人京師ニ詣リ慶倫ノ素志ヲ表ス是

年正月八日朝廷内勅ヲ賜ヒ曰ク國家ニ盡カシ朝幕ヲシテ協和セシメヨト於是慶倫入朝シテ恩ヲ拜ス五月乃チ國ニ還ル

五月關新道于神代村。横山家記

神代村ヨリ田口村並真島郡ニ抵ルノ間官道山巔ヲ通

シ甚ダ險隘ナリ人馬往々顛墜ス萬延元年九月美

甘村同郡横山廣幸平右衛門自ラ資ヲ捐テ路ヲ山下ニ拓

ント欲シ土工ヲ經始ス至是坦路一里十町餘神代村赤

坂下ヨリ田口村ヲ開設シ功ヲ訖ル藩主三浦弘次赤

備後章服及ビ物ヲ賜テ之ヲ賞ス慶倫遣兵戍攝津大石濱。

外艦數攝海ニ來ルヲ以テ、幕府命ヲ諸藩ニ下シテ、
海岸ヲ戍ラシム、是月、慶倫命ヲ奉ジ、士卒若干ヲ遣
シテ、大石濱味泥川ヨリ横川ニ至ル、沿岸五ヲ戍ラ
シメ、本營ヲ五毛村ニ置ク、明年秋ニ至テ戍ヲ解久
後明治元年、勅ヲ奉ジテ

元治元年甲子二月、幕府鑄巨礮于横山村。

幕府、津山藩臣植原正方酒術及砲ニ命ジテ、大礮

ヲ鑄造セシム、正方乃チ地ヲ城南横山村久米南ニ

占シ、大ニ職工ヲ聚メテ之ヲ造ル、

夏、飯岡村溝成。

飯岡村勝南郡ハ、西南津山川ヲ帶ビ、東ハ英田川ニ傍

フ、而テ地稍高シテ水ニ乏シ、村人角南龜次郎、角南
國吉等、英多川ノ上流青野村同郡ヨリ、水ヲ引キ田ニ
溉ント欲シ、同志者ニ謀リ溝渠ヲ穿テ、遂ニ成ル、後
復々乾涸ノ患ナシ、

八月二十五日、英國人、殺津山藩領民幾太郎。

幾太郎ハ、讚岐小豆島蒲生村ノ人ナリ、是月、英國軍
艦十餘艘、蒲生沖ニ碇泊ス、村人恠ニ出テ之ヲ視ル、
幾太郎等、遂ニ艦中ニ入テ之ニ接ス、英人短銃ノ用
法ヲ示ントシ之ヲ發ス、誤テ幾太郎ニ中ル、英人物
ヲ與テ之ヲ謝ス、村人受ケズ、英人即チ纜ヲ解キ東
ニ去ル、於是、慶倫大ニ怒リ、鞍懸吉寅、谷口義卿誠ヲ

江戸ニ遣ハシ、事實ヲ申稟ス、幕府乃チ英人ヲ詰責シテ、金若干ヲ徴シ、以テ幾太郎ノ遺族ニ給ス、

十一月九日、慶倫率軍赴于出雲。

是年七月、松平慶親長門、周防國主、本姓毛利ノ重臣益田右衛門

佐、福原越後等、兵ヲ率テ京ニ入り、松平容保會津藩主、守護

職ヲ以テテ、伐テ、克々ズシテ走ル、於是將軍家茂、勅

ヲ奉ジ山陰、山陽、西海三道ノ兵ヲ發シテ之ヲ討ズ、

徳川慶勝大納言、尾張國主ヲ以テ、總督ト為シ、慶倫ヲシテ

山陰道ノ兵ヲ督セシム、慶倫乃チ老臣永見國盛丹波

山田動榮主膳、大熊德保近江、佐久間盛健上総等、以下四千

人ヲ率テ、出雲雲樹寺能義郡ニ陣ス、十二月、慶倫廣

島ノ督府ニ會シ、慶勝卜計議スル所アリ、既ニシテ

慶親、右衛門佐等三人ヲ斬テ罪ヲ謝ス、先是十一月

三日、勝山藩主三浦弘次病アリ、子頭次ヲシテ重臣

三浦知次滿衛門、戸村愛重惣右衛門等以下ヲ以テ、役ニ廣島

ニ赴カシム、及是皆軍ヲ班ヘス、初毛利氏ノ兵京ニ

村ノ人安東鉄馬貞啟、往テ其軍ニ從フ、七月十九日、

堀町門ノ戦、貞啟身ヲ挺シテ健闘シ、敵六人ヲ斬ル、

既ニシテ銃丸面ニ中テ斃ル、時ニ二年十二月、西條

郡、真永寺村ノ人櫻井新三郎亦勤王ノ志ニ厚ク、常

ニ王事ニ周旋ス、明治元年三月、東山道督將岩倉具

視ニ從テ、江戸ニ抵リ、遂ニ賊兵ノ暗殺スル所ト

是月、津山藩置番兵。

藩、東西大番所、及ビ玉琳、筋違橋、廣瀨橋、龍ノ口ニ番

兵ヲ置キ、以テ不虞ニ備フ、

慶應元年。乙丑。二月。幕府救吉野郡壬生村民。岡田家記。

幕邑壬生村ノ民、連年窮乏シ、竟ニ自ラ濟フ能ハズ、

於是庄屋岡田彌兵衛同郡山手村ノ人、代官横田新之丞但馬

生野ニ依テ、今後十年ノ租ヲ減ジ、以テ之ヲ救フ

ヲ請フ、新之丞乃チ屬吏菊地權作ヲ遣シテ檢按セ

シメ、遂ニ幕府ニ建議シテ之ヲ許ルス、先是弘化中、

村庄屋安東壽右衛門生野代官大草太郎同郡江ノ原

請テ、後山村ノ租ヲ減ズ、俗ニ之ヲ手當定免ト稱ス、

六月十二日。津山藩置農兵。

藩封内農民ノ兵役ニ堪ル者一百人ヲ擇デ、隊伍ヲ

編制ス、而テ中島半平香々美中村ノ人、土居源次郎田邑村

植月熊次郎一方村ノ人、近藤道之丞上河内村ノ人ヲ以テ其長

ト為ス、明治二年ニ至テ之ヲ廢ス、

二年。丙寅。六月六日。慶倫復發兵赴于安藝。

先是將軍家茂親ヲ大阪城ニ來リ、再ビ師ヲ興シテ、

毛利氏ヲ討ントス、慶倫因備等五藩ト連署シ之ヲ

諫ム、家茂聽カズ、慶倫ヲシテ山陽道ニ向シム、慶倫

乃チ兵ヲ發シテ安藝ニ赴ク、至レバ則チ戰ヒ巳ニ

酣ニシテ、幕兵連リニ利アラズ、山陰道ノ兵モ亦敗

屺ス、慶倫其封境ヲ固守セザル可カラザルヲ以テ、

書ヲ督府ニ致シ而テ還ル、

十一月。津山藩領民騷擾。

是秋大風東北條郡害最モ多シ、行重村同郡直吉政之丞、光次郎等減租ノ少ナキヲ怨ミ、是月二十四日夜、村中荒坂ニ會シ、將サニ遠近ヲ侵擾セントス、一郷皆之ニ応ス、詰朝沿道ノ村落ヲ煽動シテ、川邊村南郡ニ到ル、光次郎等乃チ一千餘人ヲ分チ、倉敷村田英郡ニ向シメ、而テ自ラ進デ津山城下ヲ侵ス、藩臣佐藤嘉告郷左衛門等解諭シテ津山ニ入ザラシメントシ、竟ニ能ハズ、藩士大橋門ヲ鎖シテ之ヲ拒ス、暴徒既ニ林田町ニ入り、酒食ヲ肆ニス、銃卒ヲ詬罵シ、甚キハ胸ヲ露シテ曰ク、須ラク此ヲ擊ツベシト、遂ニ石ヲ投ジ門ヲ碎ントス、聲天地ヲ動カス、銃卒切齒ニ

禁エズ、銃ヲ發シテ光次郎等數人ヲ殪ス、古市右近、大島平藏等又諭スニ救恤ノ事ヲ以テス、暴徒ノ勢氣稍沮ム、其夜倉敷村ヨリ至ルノ徒ト合シ、富商七十餘戸ヲ破壊ス、藩乃チ令シテ之ヲ鎮壓セシム、二十六日、大庭郡古見村ノ民亦久世村ノ商戸ヲ破壊シ、且サニ津山ニ逼ントシ、無慮三千人、中北村久米北條郡ヲ過グ、村人久山直助中庄屋ヲ勤ム、迎ヘ諭テ曰ク、即シ津山ニ逼ント欲セバ、請フ必ズ先ヅ我家ヲ壞レ、我が家ヲ壞ラズンバ、此地ヲ經過スルヲ許サズト、乃チ酒餉薪炭ヲ備テ之ヲ與フ、暴徒曰ク、吾徒既ニ衆シ、汝ノ薪炭以テ供スルニ足ル耶、直助曰ク、薪炭盡

レバ則チ門舎、門舎盡レバ則チ倉庫、倉庫盡レバ則チ家屋、以テ之ニ繼ガンノミ幸ニ過慮スル無レト、暴徒其忠誠ナルニ感ジ、敢テ前マズ、内藤氏ノ代官、柴田順平、大庄屋安藤善右衛門坪井下村ノ人等、直助ヲ佐ケ、カヲ竭シテ解諭ス、十二月朔ニ至テ、遂ニ退キ去ル、是ヨリ土岐氏ノ領邑、英田郡ノ民亦騷擾シ、尋テ鎮定ス、十二月二十四日、藩主慶倫、直助ノ功ヲ賞シ、大庄屋ト為ス、明年、直吉等六人ヲ終身獄ニ處シ、騷擾ニ乗ジテ盗ヲ為ス者四人ヲ放ツ、三年丁卯三月廿六日、松平武聰來住久米北條郡。去年六月、毛利氏ノ兵石見ニ入ルヤ、濱田藩兵、益田ニ逆ヘ戦ヒ、隊長山本半彌、及ビ岸靜江、川島倉治、永

井金三郎、那波民江、近澤瀧之進、篠瀬豊次郎、カ石幸三郎等皆死シ、幕府ノ軍監三枝刑部モ亦死ス、時ニ幕府督府ノ兵之ヲ援ハズ、藩兵敗レ還ル、藩主武聰右近將監病アリ、遂ニ城ニ火シテ出雲ニ退走シ、日ニ恢復ヲ圖ル、會マ將軍家茂薨ズ、尋テ天皇亦崩ズ、因テ救シテ兵ヲ解カシム、於是武聰其領邑里公文村久米北條郡ニ徙住シ、鶴田藩ト改稱ス、後明治四年、新第ヲ同郡衆下村ニ興シ、將サニ徙ントシ藩ヲ廢セラル、今上天皇、明治元年戊辰正月、池田茂政中使老臣巡視幕邑。客歳十月十三日、將軍徳川慶喜、政權ヲ奉還シ、會津衆名ノ諸藩ヲ率キ、退テ大阪城ニ入ル、既ニシテ朝

廷慶喜ヲ召シ、會衆二藩ノ京ニ入ルヲ禁ズ、今年正月三日、會衆等諸藩慶喜ノ先駈ト稱シ、伏水ニ至リ、薩長等諸藩ノ兵ト戰ヒ、大ニ敗レ退キ走ル、於是倉敷備中生野但馬等ノ幕吏皆變ヲ聞キ邑ヲ棄テ、遁ル、幕邑恟然タリ、茂政備前國主乃チ長臣池田采女助周匝ニ命ジテ之ヲ鎮撫セシム、采女助兵ヲ率斗勝南父米南條ノ二郡ヲ巡視ス、生野及ビ倉敷所管ノ幕邑ル、幾ナクシテ薩藩折田要藏、生野ニ長藩伊勢新左衛門、倉敷ニ抵リ、之ヲ管轄ス、

二月、奉勅赦罪囚。

先是正月十日、天皇即位ノ禮ヲ行ヒ、勅シテ亂臣賊子ヲ除クノ外、天下ノ罪人ヲ赦ス、至是津山、鶴田、勝山

ノ三藩、及ビ海内、下町ノ諸廨、皆其獄囚ヲ釋シ、放者ノ籍ヲ復ス、

慶倫朝京師。

德川氏政權ヲ奉還スルノ後、朝廷列藩ヲ召ス、初メ慶倫先帝ノ内勅ヲ奉ジ、朝幕ノ間ニ周旋シ、而テ伏水ノ變アリ、痛歎措ク能ハズ、乃チ志ヲ大義ニ決シ、亟カニ闕下ニ詣リ罪ヲ謝サント欲シ、病アルヲ以テ未ダ發セズ、然ルニ德川氏ノ宗親ナルヲ以テ、毛利氏、池田氏等ノ疑ヲ容ル、所口ト為ル、是月遂ニ入朝ス、

津山藩置外事局。

藩、小澤朝恭本、山本戡雙、河瀬重徹重、中澤貞胖廣、
村高尚覺兵衛等ヲシテ專ラ隣交ヲ修メシム、其署ヲ
名ケテ外事局ト曰フ、

閏四月十九日。鶴田藩老臣尾關當遵。自殺謝罪。

伏水ノ變ヤ、鶴田藩兵會衆ノ諸藩ト共ニ官軍ニ抗
戰ス、然ルニ藩主武聰病アリ、事皆藩臣ノ意ニ出ル
ヲ以テ、重臣及ビ隊長數人自殺シ、以テ之ヲ明カサ
ント欲シ、因備ニ藩主共ニ武聰ノ兄ナリニ就テ哀請ス、朝議
重臣一人ニ死ヲ賜ヒ之ヲ許サル、當遵年六十六、乃チ
罪ヲ引キ、京師本國寺ニ自殺ス、朝廷ニ藩主ニ命ジ
テ恩諭ヲ武聰ニ傳ヘシム、

五月九日。赤野村女。一胎産三子。

女名ハ照、津山封内赤野村大庭郡ノ農民音蔵ノ妻ナ
リ、一胎一男兩女ヲ産ム、藩乃チ舊幕ノ例ニ準ジテ、
青銅五十貫文ヲ給與ス、

是月。慶倫告諭封内。論告

先是慶倫入京シ、毛利定廣ニ和ス、又池田章政茂政子
ト和親シ、緩急相救ヒ、吉凶相通ズルヲ約ス、是ニ於
テ、慶倫章政、各其封内ニ告諭シテ、曰ク、浮説ヲ作テ、
人民ヲ煽動シ、兩藩ヲシテ睽乖セシムル勿レ、

松平武聰。領久米南條郡等三萬八千石。

朝廷武聰ニ脇坂安宅ノ所管英田土居、竹田、勝南、仁

行信、松尾、藤田、勝北、田井、植木、神目、南畑、村出、王子、阿蘇、村等、足山、久米、打五郡ノ内ヲ賜フ、六月八日、

武聰之ヲ收メ、其臣平野秀二郎、田澤喜十郎、神澤賜之助、小寺恒五郎、岡田傳等ヲシテ、桑下村及ビ和田南村ニ管セシム、

二年。二月二十七日。慶倫奉還封土。

先是、薩長、肥土、諸藩、版籍ヲ奉還ス、慶倫亦之ヲ還納ス、

三月。慶倫巡視管内。

慶倫輕装シ、管内ヲ巡視シテ、復古ノ朝旨ヲ告諭シ、且孝義慈善者ヲ褒獎シ、貧民ヲ救恤ス、蓋シ郡代西

村正路橋五ノ建議ニ由ルナリ、明年三月、鶴田藩主武聰、亦大參事ヲシ

テ代テ管内ヲ巡視セシム、

四月十七日。慶倫創建作樂神社。

先是、藩臣道家八尺助十郎、植木英謹惣左衛門、宇津木義路

助、殿海老原景昭平修三郎、好政房勘五左衛門、服部政徳兵原

田行正守谷口義卿、神西少磨仁六郎、松本政明七郎右衛門、

安藤重恭仲藏、矢吹正則、立石公久助右衛門、十三人、連署シ

テ後醍醐帝ヲ院莊ノ館趾ニ祀リ、兒島高德ヲ以テ

之ニ配享センコトヲ請フ、適、慶倫京師ニ在リ、大ニ

之ヲ嘉シ、直ニ奏ス、三月八日允サル、於是慶倫、八尺行正、政明、正則、公久、及ビ妹尾正興怒平、江川昭武繁次郎、

森岡為繼陣八郎、木村重國近之、之ノ九人ニ命ジテ造營ノ事ヲ掌ラシム、號シテ作樂神社ト曰フ、士民ノ來テ功ヲ助ル者、日ニ百ヲ以テ數フ、十一月ニ至テ、成ヲ告グ、

六月。三藩主皆任知事。

是月十八日、正四位松平慶倫、津山藩知事ニ任ズ、二十一日、從五位三浦顯次、真島藩是日、勝山藩ヲ改テ、真島藩ト為ス、知事ニ任ズ、二十四日、從四位松平武聰、鶴田藩知事ニ任ズ、於是、皆朝制ニ據テ、庶政ヲ改革ス、十月、津山藩渡部兼道惣馬、海老原景員極人ヲ以テ、大参事ト為シ、鞍懸吉寅、小澤朝泰、宮田德輔矯四郎、昌谷千里端一ヲ以

テ、權大参事ト為ス、鶴田藩、尾関秀秀之丞、伊藤祐命三郎ヲ以テ、大参事ト為シ、生田精精、野島恒了、河鯨齋新ヲ以テ、權大参事ト為ス、真島藩、九津見範陳吉左衛門、戸村愛重惣右衛門、加藤重喬右門ヲ以テ、正權大参事ト為ス、尋テ少参事大属以下ヲ撰任ス、

七月。津山藩拘川副誠之丞等十人。

先是誠之丞、山路一郎等ト、江戸ヲ亡逸シ、數官軍ニ抗戰シ、終ニ函館ニ降ル、於是、津山藩ニ勅シテ之ヲ拘セシム、慶倫乃チ之ヲ城西安國寺ニ拘置ス、明年五月二十四日、駿河静岡藩ニ遣歸ス、一郎等三人、留テ藩ニ仕ス、秋。真島藩設明善館。

藩明善館ヲ創設シ、士民ヲシテ學ニ就カシム、
十月二十九日。津山藩置議事局。

藩黒田成復、村山正臣ヲ以テ、正副議長ト為シ、中村
謙靜一丹治謙治ヲ以テ、幹事ト為ス、而テ大村成章

夫、西村正路、信澤南港、道家八尺、上原燮彦太、馬場真
毅縫殿、右野矢為憲馬力、神村信卿省、久原宗甫、三浦一

馬、後藤懋立太、馬場信成兼次、神西少磨等二十人ヲ
公選シ、以テ議員ト為ス、

十一月。鶴田藩管内騷擾。

去年、藩所管ノ民心一ナラズ、庄屋ヲ猜嫌シ、誣告ス
ル者アリ、自ラ愁訴ト稱ス、而テ之ニ與セザル者ア

リ、亦自ラ正義ト稱ス、先是、庄屋等謂ラク藩主舊祿
ニ復セザレバ、以テ士卒ニ給スルニ足ラズ、宜ク藩

主ニ代テ之ヲ乞フベシ、若シ允サレズンバ、復龍野
藩ノ所管ト為ント、是ヲ以テ郡吏益、庄屋ヲ怨嫌シ、

正義ト愁訴ノ徵担ヲ別ツ、偶々愁訴ノ悔悟シテ、黨
ヲ除カント欲スル者アルモ、聽サズ、因テ中立シテ

亦自ラ落印ト稱ス、管内紛擾、人心危懼スル者、幾ン
ド一年半、是月、藩遂ニ愁訴ノ兇暴ナルヲ以テ之ヲ

擯斥ス、十六日、訴黨乃チ羽出木、鹽ノ内並ニ久米南
ニ蜂起シ、勝南郡ヲ煽動シテ、十九日、土居村英田ニ

至ル、其黨千ヲ以テ數フ、至ル所口富豪ニ強迫シ、貧

養ヲ肆マ、ニス、既ニシテ下二箇山手村久米南二出ヅ、藩乃チ士卒ヲ出シ、六百餘人ヲ捕フ、於是、管下始テ帖席ノ念ヲ為ス、明年八月十八日、山ノ上村、定右衛門、藏、已之助、藤田、上村、清左衛門、吉兵衛ヲ終身獄ニ、山ノ上村、常八、羽出、木村、清左衛門、門等十一人ヲ徒刑ニ處ス、翌日、押淵、村庄、屋田、口、勸助、山ノ城、村庄、屋志、茂善、八郎、其村、民ヲシテ之ニ黨セシメザルヲ以テ、氏ヲ稱シ、刀ヲ佩ブルヲ許シ之ヲ賞ス、

二十九日。鶴田藩改祿制。

藩士族ヲ分テ六等ト為シ、卒ヲ二等ト為ス、而テ上士ニ祿二十三石ヲ給シ、以下每等二石五斗ヲ遞減ス、獨尾、閑秀ニ、四十二石ヲ給ス、其父當遵ノ忠死ニ報ユル所ナリト云、冬。鶴田藩改學制。

先是、藩學校ヲ乘下村ニ設ク、至此學制ヲ更正シ、士民ヲシテ學ニ就カシム、

三年。庚午。正月。津山藩設衆樂園。

園ハ山北村西北條郡、○城ヲ距ルハ町、ニ在リ、先國主森氏ノ築ク所ニシテ、藩主ノ別墅ト為リ、北園、又迎賓館ト稱ス、於是、慶倫改テ衆樂園ト名ケ、衆庶ニ縱シテ遊觀セシム、

三月十二日。慶倫徙居新第。

先是、津山城、大阪鎮臺ノ所轄ト為ル、慶倫乃チ新第ヲ城内、厩濠ノ北ニ興シ、焉ニ居ル、
春。津山藩改定軍制。

藩初ノ甲越ノ兵制ヲ用ヒ、城内ニ講習ス、慶應中、改テ蘭式ト為シ、砲臺ヲ各所ニ築ク、明治ノ初、又英式ニ更メ、射槍ノ術ヲ廢ス、至是朝制ニ從ヒ、又佛式ニ革ム、後五年二月ニ至テ之ヲ廢ス、鶴田、真島兩藩ノ兵制モ、亦率ニ同ジ、

八月、通舟于高田川原流。

先是美甘政和與一郎、津山藩士、元大庭郡湯本村ノ人、池田類次郎真島郡尾村等、高田川ノ原流ヲ浚鑿シテ、大庭、真島二郡及ビ因幡、伯耆ノ諸物産ヲ南海ニ漕運セント欲シ、津山、真島、鳥取、岡山四藩ニ建議ス、四藩皆之ヲ善トシ、資ヲ給シテ浚鑿セシム、經營スルコト三年、高田村

真島ヨリ、長田村大庭郡ニ至ルマデ、水路八里、功畧ボ

成ル、於是四藩相會シテ、通舟ノ式ヲ行フ、政和等、繼ヲ加ント欲シ、廢藩ニ會フテ止ム是役、鳥取藩武信潤太郎、真島藩関屋四六等、大ニカヲ竭セリト云、九月十八日、大風。

是月、奉勅許平民稱姓氏。

十一月二十二日、津山藩改祿制。

先是、明治二年、藩士ヲ十四等ニ分テ、祿五十石以下ヲ給ス、至是、又改テ十六石及ビ十一石ト為シ、卒ニ四石及ビ三石ヲ給ス、

二十五日、津山藩改革庶政。

藩文武ノ諸官ヲ改任シ、民政局以下ヲ藩廳ニ合シ

元、事務ヲ調理セシム、

十二月十日。真島藩改祿制。

藩士ニ二十五石及ビ九石ヲ給シ、卒ニ六石五斗ヲ給ス、

四年。辛未。五月十八日。洪水。

津山川大ニ溢レ、市街半バ水ニ浸サル、

七月十四日。廢藩為縣。

是日、詔シテ諸藩ヲ廢シ、知事ヲ罷メ、而テ正權大参事ヲシテ縣治ヲ綜理セシム、

二十五日。慶倫卒。

慶倫ハ、齊孝ノ第二子ニシテ、齊民ノ嗣ナリ、嘉永元

年正月、從四位上ニ叙シ、左近衛推少將、兼三河守ニ任ズ、安政四年十二月、左近衛權中將ニ遷ル、元治元年五月、正四位下ニ進ム、其疾ノ革ナルニ及テ、廢藩ノ詔至ル、乃チ坐ヲ端シテ之ヲ拜シ、大小参事ニ拮据勉勵センコトヲ囑シ、遂ニ卒ス、享年四十有五、舊臣建議スル者アリ、始テ愛山村山北ニ神葬ス、慎由ト謚ス、

八月十二日。盜殺權大参事鞍懸吉寅。

曩キニ、吉寅、藩命ヲ以テ東京ニ在リ、官召テ民部省

ニ出仕セシム、廢藩ニ及ビ、乃チ請テ國ニ歸リ、縣治

ノ事ヲ議ス、是日、河瀬重男椿高下ニ居ル、ヲ訪ヒ、半夜出去

シトス、盜門外ニ在リ、小銃ヲ以テ狙撃ス、丸肋ニ中
テ歿ス、官之ヲ憫ミ、祭祀金七十兩ヲ賜フ、
二十四日、松平武聰移住東京。

先是、朝廷舊藩主ヨ以テ、東京府ノ貫屬ト為シ徙リ
居ラシム、是日、武聰里公文村ヲ發シテ途ニ上ル
九月十一日、三浦顯次移住東京。

二十一日、松平康倫移住東京。

康倫 幼名太刀若

ハ齊民ノ第三子ナリ、明治元年閏四月、

從四位上ニ叙シ、侍從、兼美作守ニ任ズ、至是、慶倫ノ
嗣ヲ承ケ、家ヲ挈テ東京ニ移住ス、蓋シ元祿十一年
宣富始テ津山ニ封ゼラレシヨリ、茲ニ至テ十世一

百七十四年ナリ、

十一月十五日、置北條縣于津山、管轄閩州。

是日、小野立誠

越前大野士族

權參事ニ任ズ、二十日、淵邊高

照 薩摩鹿兒島士族

參事ニ任ズ、十二月二十九日、共ニ津山

ニ到ル、明年正月四日、元津山縣廳ヲ以テ、北條縣廳

ト為ス、五日、判任ヲ撰用ス、是ヨリ日ヲ逐フテ、元津

山 二十日、二百

鶴田

百一十一村、二

真島

百八村、七

倉敷

二月十五日、日、沼田

六十八日、古河

同村、三

豐岡

同日、五

舉

九日、三村、明石

同日、四村、龍野

同日、十縣ノ土地

人民ヲ

統理ス、

美作畧史卷之四終

日表示賜矣吹君可若美作畧史并乞微
拙叙亦小不才加以官事督促甚嚴文章
荒蕪何不應令然漢畧史收其綜談事
實詳畧得宜比之近日坊間所在諸書相
距何言事等亦小在史改不能為之表
章之恐招爐穢之譏因執苦當駭教方之
篇研以塞責然矣大方耳頃者不圖
隆禮辱賜殊增悚息謹以鳴謝尋

用本書或為私販今知定之然其原
定好之辭並佳以有觀之名不可言者請
速刊行以惠世可也以此言傳示使人聞之
矢吹君他日而得恭安之辭懷不宣

依四下小拜

矢吹井仁兄

六月一日

明治十二年十二月廿四日版權免許
同 十四年三月刻成

著者

岡山縣士族

矢吹正則

美作國西北條郡南新坐
四百七十三番屋敷居住

板主

同 縣士族

矢吹金一郎

同國同郡同所
同番屋敷居住

賣 捌 書 肆

東京日本橋二丁目	西京寺町三条上	大坂本町四丁目	同京町堀上通二丁目	備前岡山下之町	美作津山本町二丁目	同伏見町	同京町	同久世	同津山安岡町	同倉敷
福田佐兵衛	田中治兵衛	赤志忠七	松田正助	渡邊源米	横山治平	林裕	寶多房次郎	下村義一	杉山恭次郎	金谷源吾

定價金壹圓拾錢

2
21

2
21



